

第
66
回

日本児童青年精神医学会総会

Thinking locally: "A frog in a well knows the depth of the blue sky"

2025
11/ 13^木 - 15^土

会場
JR福井駅
に隣接

アオッサ
AOSSA 福井市手寄1-4-1
ハピリン 福井市中央1-2-1

第66回日本児童青年精神医学会総会

—Thinking locally: “A frog in a well knows the depth of the blue sky—

会長：小坂浩隆（福井大学医学部精神医学 教授）

会 期 2025年11月13日（木）～15日（土）

オンデマンド配信期間：2025年12月15日～2026年1月15日（予定）

会 場 AOSSA（アオッサ）、ハピリン

A～H 会 場 AOSSA 6F・7F・8F（福井市手寄1-4-1）

I～J 会 場 ハピリン 3F・4F（福井市手寄1-2-1）

K 会 場 コートヤード・バイ・マリオット福井 4F 芙蓉の間（福井市中央1-3-5）

ポスター会場 AOSSA 6F F・G・H会場

代議員会 2025年11月13日（木）D会場AOSSA 6F

会員集会 2025年11月13日（木）A会場 AOSSA 8F

懇 親 会 2025年11月14日（金）コートヤード・バイ・マリオット福井 4F

第66回日本児童青年精神医学会総会 運営事務局

株式会社ライトスタッフ内

〒910-0024 福井県福井市照手3-8-15

TEL：0776-25-5060 【時間】 平日10：00～18：00 FAX：0776-25-7202

E-mail：jscap66@right-stuff.biz

総会HP： <http://child-adolesc.jp/meeting/66/>

学会HP： <http://child-adolesc.jp/>

学会事務局 〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8 （株）土倉事務所内

Tel: 075-451-4844 Fax: 075-441-0436

E-mail: jde07707@nifty.com

第 66 回日本児童青年精神医学会総会

Thinking locally: “A frog in a well knows the depth of the blue sky”

2025年11月13日（木）～15日（土）にかけて開催されます、第66回日本児童青年精神医学会総会の会長を拝命しております小坂浩隆です。開催にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

本総会のテーマは、「Thinking locally: “A frog in a well knows the depth of the blue sky”」です。

“A frog in a well”は有名な格言（荘子）「井の中の蛙」になります。しかしながら、一般的なマイナスの意味合いだけでなく、「井の中の蛙、天を知る」とプラスの意味合いもあるとされます（河井寛次郎記念館）。

私たち児童精神領域に携わる者は、狭い世界を生きているかもしれないけど、子どもたちの将来をずっと考えている。この信念を常に忘れないで行こう。もちろん、子どもたち側もそうかと思います。子どもたちも大人になってしまった私たちにはわからない世界の中で生きているのかもしれない。私たちには、とてもつまらない、理解ができない、意味のない世界に見えるかもしれないけれど、子どもたちもその世界で深く学んでいる、大切な経験をしているのではないのでしょうか。

今回、福井市出身の著名な漫画家の石黒正数先生に、そのテーマをお伝えさせていただいたところ、とても素敵な原画を作成くださいました。

石黒先生よりコメント：

“ テーマになぞらえ、地面に落ちた雲の影と子供たちが見上げる様子から、空を感じられるようにと思い描きました。 石黒正数 ”

この場をお借りして、石黒正数先生には感謝申し上げます。石黒先生の原画をどのように感じられたかは、皆様にお任せしたいと思いますが、とても奥が深いと感じております。

福井の秋は観光も楽しめ、美味しいもの満載の時期です。総会開催時はカニ解禁直後の時期でもあり、早めの宿泊予約をお願いいたします。福井県の観光スポットは、世界に誇る福井県立恐竜博物館、曹洞宗大本山永平寺、歴史と苔と静寂の美しい平泉寺白山神社、天空の城越前大野城、断崖絶壁の東尋坊、城下町跡一乗谷朝倉氏遺跡、あわら温泉など数えだしたら切りがございません。ぜひとも、秋の福井を堪能いただければ幸いです。

ひっていいとこやざあー、ぜひ来てのお！会場であおっさ

（とてもいい所です、ぜひ来てね！会場でお会いしましょう）

第66回日本児童青年精神医学会総会

会長 小坂 浩隆

（福井大学医学部精神医学 教授）

参加者へのご案内

1. 参加受付

本会へご参加いただくにあたり、早期登録または通常・当日参加登録のいずれかをお済ませください。なお当日、現地での参加登録受付は行いませんのでご了承ください。

当日は受付で参加証を入れる名札ケースをお渡しいたしますので、必ずマイページから参加証を印刷の上ご持参いただきますよう、お願いいたします。

受付期間

○通常・当日登録：2025 年 10 月 1 日（水）～オンデマンド配信終了まで

※銀行振り込みによる当日参加の申込及び入金締切は 10 月 31 日（金）までとなります。

参加費など

参加者区分	通常・当日参加登録
学会員（不課税）	12,000円
非会員 一般 （消費税込10%込）	14,000円 （内消費税額1,273円）
非会員 学生（大学院生） （消費税込10%込）	12,000円 （内消費税額1,091円）
非会員 学生（学部生） （消費税込10%込）	4,000円 （内消費税額346円）
懇親会費	5,000円 （消費税10%込、内消費税額 455円）

※オンデマンド配信は会期終了1ヶ月後を目安に公開し、1ヶ月程度公開を予定しております。

- ・現地参加の方は、マイページより参加証をダウンロード・出力いただき、会場にご持参ください。
- ・例年同様、抄録集の印刷・発行はございません。マイページよりご覧いただけます。
- ・会員の方は、期限なく当学会ホームページの会員サイトより閲覧することができます。

2. 症例検討への参加方法

本学会の学会員のみご参加いただけます。非会員の方はご参加いただけませんのでご注意ください。詳細につきましては巻頭の参加に関するご案内をお読みください。

3. 年会費等受付（学会事務局）

総会会場に学会事務局受付を設けていますが、入会は web から申請となり、当日の入会はできません。Web から申請いただき、理事会で承認となります。

総会直前に承認された新入会員の方はプログラムを学会事務局受付でお受け取り下さい。年会費の納入は受け付けております。

4. 会員集会

日 時：2025 年 11 月 13 日（木）12：40～13：40

会 場：AOSSA 8F 福井県民ホール

会員の皆様に学会活動についてご報告いたしますので、万障繰り合わせの上、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

5. 懇親会

日 時：2025 年 11 月 14 日（金）18：30～20：30

会 場：コートヤード・バイ・マリオット福井 4F 芙蓉の間

参加費：5,000 円

定 員：200 名

※参加される方は参加登録と一緒に申し込みください。

※定員に達し次第受付を終了させていただきます。

お早めの受付をお願いいたします。

6. 単位について

1) 本会では「日本精神神経学会精神科専門医」「子どものこころ専門医」の対象セッションとして申請いたします。詳しくは各学会・団体へお問い合わせください。

単位取得を希望される方は必ず申請してください。マイページの単位申請フォームから申請いただきますようお願いいたします。オンデマンド配信でも単位申請は可能です。

オンデマンド配信期間終了後に視聴記録を申請先事務局へ提出いたします。

※事務局で視聴記録を管理をさせていただいております。

各单位による申請方法の詳細は下記をご覧ください。

○日本精神神経学会精神科専門医（B 群）

・本学会では3単位取得可能です。

・現地参加の方におかれましては、会期中に総合受付へ会員証を提示ください（会員証のご提示は会期中1回のみ）。

・オンデマンド配信で参加の方におかれましては、マイページの単位申請フォームより、「日本精神神経学会精神科専門医（B 群）」の項目に必須情報を記載し、申請してください。

【日本精神神経学会精神科専門医 対象セッション一覧】

教育講演 1～9

シンポジウム 1～26

○子どものこころ専門医

2023 年度より QR コードを用いての受講単位登録が始まりました。

講習受講時には QR コードを読み込むことができるインターネット接続可能な機器（スマートフォン・タブレット等）と専門医・専攻医専用サイトの ID・パスワードをご用意ください。

・1つの受講につき1単位が取得可能です。

・現地参加の方におかれましては、講演終了後に、講演会場の出口に QR コードを掲示いたしますので、QR コードを読み込んでいただきご自身で申請して下さい。

- ・オンデマンド配信で参加の方におかれましては、マイページのオンデマンド配信視聴ページより、ご視聴いただき、スライドに表示された QR コードを読み込んでいただき、ご自身で申請して下さい。

【子どものこころ専門医 単位対象セッション一覧】

- ・教育講演 1～9
- ・シンポジウム 1～26
- ・症例検討 1～5（現地参加のみ）
- ・各委員会セミナー

2) 公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会

「臨床心理士」有資格者の資格取得後の教育・研修にかかる研修機会として、本会は承認されております。研修証明書として学会参加証をご提出ください。

＜付与ポイント＞

- ・講師参加：4 ポイント、発表者：4 ポイント、学会参加：2 ポイント

7. 弁当について

本総会の共催セミナーでは、弁当の無料配布はございません。

参加登録時にお申し込みいただいた方は指定日時に参加証をご提示いただき、弁当をお受け取りください。当日の販売はございません。

【弁当引換日時】

日 時：2025 年 11 月 14 日（金） 11：30～12：30

2025 年 11 月 15 日（土） 11：30～12：30

場 所：総合受付（AOSSA 1F アトリウム内）

8. クローク

貴重品や傘のお預かりは致しかねますのであらかじめご了承ください。また、お預かりは当日限りとし、翌日までのお預かりは致しかねますので、クローク開設時間内に必ずお引き取りください。

※代議員会（13 日）および懇親会（14 日）にご出席される方は会場内に荷物をお持ち込みください。

【クローク開設時間】

場 所	受付日時
AOSSA 6F 工作実習室	2025年11月13日（木） 11：30～19：30
	2025年11月14日（金） 8：30～18：30
	2025年11月15日（土） 8：30～16：30

9. 託児所

第 66 回総会の会場に託児所はありません。

つきましては、会場周辺にございます託児所をご案内させていただきますので、ご利用される参加者の皆様におかれましては、使用希望日の 1 ヶ月前にご予約いただけますと幸いです。

託児所の一覧は下記以降をご確認ください。

○福井市子ども一時預かり所「の〜び・のび」

場 所：福井県福井市中央 1- 2- 1 「ハピリン 2F」

利用時間：9 時～18 時（月・水・木・日） 9 時～20 時（金・土）

【定休日】火曜日 / 年末年始（12/29～1 / 3）

利用対象：生後 6 ヶ月から小学 3 年生までのお子さま

料 金：700 円 / 1 時間 ※福井市にお住まいの方は 350 円 / 1 時間

利用方法：使用希望日の 1 ヶ月前～前日までに電話でご予約ください。

電話での受付時間は、開所日の 8 時半から 18 時（金、土は 20 時）までです。

※すぐに利用枠が埋まってしまうこともございますのでお早めにご予約ください

電 話：0776-24-3715

W e b：https://www.city.fukui.lg.jp/fukusi/kosodate/sien/nobinobi.html

○すまいるいきっず

場 所：福井市手寄 1 丁目 11-23 「駅東さくらビル 2F」

利用時間：9 時～19 時（通常保育） 19 時～20 時（延長保育）

【定休日】なし

利用対象：生後 6 ヶ月から 5 歳のお子さま

料 金：700 円 / 1 時間 ※延長保育は 175 円 / 15 分

※福井市にお住まいの方は 350 円 / 1 時間

利用方法：登録に必要なものは①印鑑（シャチハタ不可）、②お子様の健康保険証、③母子手帳、④保護者の方の身分証明書（お父様・お母様分）となります。

使用希望日の 1 週間までに電話でご予約ください。

※すぐに利用枠が埋まってしまうこともございますのでお早めにご予約ください

電 話：0776-97-9366（平日 9：00～18：00）

お問合せ：https://smileykids.jp/contact/index.php

W e b：https://smileykids.jp

○とらいあんぐる

場 所：福井市日之出4丁目1-6「アイビーエージェント株式会社 1F」

利用時間：9時～17時

【定休日】土・日・祝日・お盆休み・年末年始

利用対象：生後6ヶ月から 6歳のお子さま

料 金：1,000円 / 1時間 ※福井市にお住まいの方は350円 / 1時間

利用方法：初回登録に必要なものは①印鑑（シャチハタ不可）、②お子様の健康保険証のコピー、③母子手帳のコピー（最新の検診ページ）、④登録費用1,000円となります。

お預けになる際の持ち物についてはwebをご確認ください。

使用希望日の2日前までに電話でご予約ください。

※すぐに利用枠が埋まってしまうこともございますのでお早めにご予約ください

電 話：0776-24-2346（平日9：00～17：00）

W e b：https://www.iba-net.co.jp/triangle/

10. その他

- 1) 会場内では、携帯電話をマナーモードに設定してください。
- 2) 会場内は全館禁煙です。
- 3) 事務局の許可のない掲示・展示・印刷物の配布・録音・写真撮影・ビデオ撮影は固くお断りいたします。

司会・発表者へのご案内

1. 進行情報

セッション	発表	質疑
一般演題（口演・ポスター）	8分	4分

※上記以外のセッションについては発表時間、質疑時間、総合討論の有無について、別途担当者よりお知らせします。

- ・発表終了1分前に黄色ランプ、終了・超過時には赤色ランプを点灯してお知らせします。円滑な進行のため、時間厳守をお願いします。
- ・演台上には、モニター、キーボード、マウスを用意いたします。演台に上がると最初のスライドが表示されますので、その後の操作は各自でおこなってください。
- ・一般演題で発表される方については PowerPoint の「発表者ツール」の使用はできません。

2. 司会の皆さまへ

口演セッション

司会受付はございません。司会は担当セッションの15分前までに、講演会場の右手前方にある「次司会席」へご着席ください。

ポスターセッション

担当セッション開始予定時刻の15分前までに、AOSSA 6Fの「ポスター司会受付」にお立ち寄りいただき、司会用リボンと指示棒をお受取りください。アナウンスはいたしませんので、担当セッションのパネルの前で待機していただき、所定の時刻より開始してください。セッション終了後、指示棒は「ポスター司会受付」にご返却ください。

3. 発表者の皆さまへ

利益相反の開示

- 1) 会員・非会員の別を問わず学会発表者（筆頭発表者）は自身のCOI状態を発表スライドの最初（または演題・発表者を紹介するスライドの次）またはポスターの最後に開示してください。

口演セッション試写・発表方法

- 1) 口演発表は、すべてPC発表（PowerPoint）のみといたします。発表データはMicrosoft PowerPointでサイズを16：9で作成してください。
- 2) 発表原稿が必要な方は、あらかじめプリントアウトしてお持ちください。会場でのプリントアウトは対応しておりません。
- 3) 発表データ持ち込み・PC持ち込みはセッション開始の30分前までに済ませてください。

【データ持込みによる発表の場合】

- ・フォントは下記に示すOS標準フォントをご使用ください。特殊フォントは文字化けの可能性があるのでご注意ください。

【日本語】MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝

〔英 語〕 Airai、Century、Century Gothic、Times、Times New Roman

- ・データは USB でお持ち込みください。USB に保存したデータが、他の PC でも読み込めることを事前にご確認ください。また、発表データのファイル名は〈演題番号（半角英数字）＋発表者氏名〉としてください。

（例）O1-1 福井 太郎

- ・動画があるデータを持参する場合は、動画などの参照ファイルも含め全てのデータを同じフォルダに保存してください。また、バックアップとして PC 本体をお持ちくださいますようお願いいたします。なお、取り込んだ発表データは、学会終了後に事務局で責任をもって破棄させていただきます。

【PC 本体持込みによる発表の場合】

- ・会場で用意する PC ケーブルコネクタの形状は「HDMI 端子（図参照）」です。この端子を持つ PC をご用意ください。または、この形状に変換するコネクタを必要とする場合は必ずご持参ください。事務局での貸し出しはできません。



- ・自動ロック、スクリーンセーバー、省電力設定は予め解除しておいてください。
- ・バッテリー切れを防ぐために AC 電源アダプターをご用意ください。
- ・万一パソコンが接続不良などで使用できなくなった場合に備えてデータのバックアップを USB メモリでご用意ください。

【ポスターセッション】

- 1) ポスターの貼付スペースは、横90cm×縦190cmの範囲内とします。タイトル・氏名・所属は、パネル上方の演題番号の横に横70cm×縦20cmでおさまるようにご自身でご準備ください。演題番号と画鋏は、事務局で準備いたします。

〈ポスター作成図〉



2) ポスター貼付・撤去スケジュール

発表日	貼付	撤去
11月13日（木）	11月13日（木）12：00～14：00	11月13日（木）17：30～19：30
11月14日（金）	11月13日（木）17：30～19：30	11月14日（金）15：40～18：00
11月15日（土）	11月14日（金）15：40～18：00	11月15日（土）15：00～16：00

※ポスターはご自身で貼り替えとなります。

※ポスター撤去時間は厳守してください。時間になり次第、処分いたします。

3) 演者受付は不要です。セッション開始 15 分前までにご自身のパネルの前で待機してください

4. PC 発表データの受付

今年度の総会では PC 受付が 2 会場ございます。ご自身の発表会場の PC 受付にセッション開始の 30 分前までに発表データをお持ち込みください。

14 日（金）または 15 日（土）の 9：00 開始のセッションにご登壇いただく方は、PC 受付が大変混み合うことが予想されますので、可能な限り前日のうちに PC 受付を済ませていただきますようお願いいたします。

発表をご自身の PCで行う場合についても、PC データ受付に指定の時間までにお越しいただき、データ受付を行なってください。

データ受付後は発表の 15 分前までに会場左前方の次演者席付近へご着席ください。

1. AOSSA 8F 福井県県民ホール入口

対象となるセッション会場：A,B,C,D,E 会場

2. ハピリン 3F ハピリンホールホワイエ

対象となるセッション会場：I,J 会場

【PC 受付開設時間】

場所	受付日時
AOSSA 8F 福井県県民ホール入口	2025 年 11 月 13 日（木）12：00～18：30
	2025 年 11 月 14 日（金）8：30～18：30
	2025 年 11 月 15 日（土）8：30～13：30
ハピリン 3F ハピリンホール ホワイエ	2025 年 11 月 13 日（木）12：00～18：30
	2025 年 11 月 14 日（金）8：30～18：30
	2025 年 11 月 15 日（土）8：30～13：30

※ K 会場については PC 受付がございません。セッション開始 15 分前までに直接会場にデータをお持ち込みください。

前文

日本児童青年精神医学会は、1996年8月の世界精神医学会総会において採択された「マドリッド宣言」と1999年8月の同総会で承認された倫理ガイドライン特別項目を基本にして、ここに会員の遵守すべき倫理綱領を制定する。

今日、国内外において子ども（児童及び青年）の精神保健をめぐる深刻な問題が多様に出現しており、その背景には家族・学校・地域社会における人間関係や慣習、生活環境、文化の変貌等がある。そのため、児童青年精神科医をはじめとして臨床と実践の仕事に携わる専門家への期待が世界的に高まっている。

さらに、精神科医療、保健、福祉、教育、司法等対人援助分野の専門性に対する社会の意識も大きく変化し、各分野の専門家と子どもとの関係のあり方、治療・援助方法などに変更を求め、研究上また临床上において新たな倫理的基準を求めるようになってきた。

医療は、癒しのサイエンスであり、かつアートである。この組み合わせのダイナミクスは、精神的に病み、また障害をもつものを保護し、ケアし、治療することを専門とする精神科医療、とりわけ児童青年期精神科医療において顕著に現れている。ここでは、治療的介入や研究活動が子どもの心身の機能および人権に対して侵襲的なものにならないよう十分な配慮が必要である。

1（基本原則）

児童青年期精神科医療は、子どもの精神障害などに対して、最良の治療を提供し、かつ精神的に悩む人達のハビリティーション、精神保健を含めた予防医学的活動の推進、心身の発達支援を目指す児童青年精神医学を中心とした学際的領域である。

会員は、子どもに対して習得した科学的知識と臨床経験並びに倫理的原則に調和した最高の治療・援助を提供するよう努める。

会員は、契約関係にある子どもへの制限が最小限になるような治療的介入を工夫し、必要があれば他分野との連携を積極的に図る。また、会員は保健資源の公正な配置に注目し必要があればその改善のために努力する。

2（会員の義務）

会員は、この分野の科学的知識・技術の習得の義務とともに最新の知識を他に伝達する義務をもつ。また、研究に従事する会員には、科学的に未開拓な領域の発見と検証に努力する義務がある。

3（国際協力）

会員は、国際的視野と見地の下で臨床と研究を進めるとともに、国内外の専門家と協力して世界の子どもの精神保健の維持と改善に努力する。

4（発達する存在への配慮）

会員は、治療や援助の対象としている子どもが急激な発達の変化の途上にあることに十分に留意しなければならない。

子ども期は発達上の個人差が著しく、症状の変化も激しい時期にあるので評価は慎重でなければならないし、薬物の使用などの医療的処置やその他の臨床的対応にも慎重でなければならない。

契約関係にある子どもが年少であったり、障害のために的確な判断ができない場合は、会員は保護者と十分に話し合いを行い、子どもの人間としての尊厳と権利を保護するために法的助言を求める。治療援助を行わなければ、子どもまたは子どもの周囲の人達、あるいは両者の生命と安全を危険に晒すことになるという場合を除いて、会員は子どもまたは保護者、あるいは両者の意思に反した治療はいかなるものも行うべきではない。

5（インフォームド・コンセント）

会員が一人の人を調査・評価する場合、その目的、その結果の用途、その結果によって起こり得る影響を、調査・評価される当事者および／または保護者に告知・説明し、理解・了承を得る努力をする義務がある。会員が第3者の状況にかかわっているような場合、これは特に重要である。会員は、諸種の事情で契約関係にある子どものインフォームド・コンセントを得られない場合であっても、アセントを得る努力はするべきである。

治療・援助過程において、子どもとその保護者はまさしくパートナーとして認められるべきである。治療・援助者と子どもおよび保護者との関係は、子どもおよび保護者が十分な情報を得た上で自由に自己決定ができるように、相互信頼と尊敬に基づかなければならない。また、会員は、子どもとその保護者が自身の個人的価値と考えに基づいて合理的な決定ができるように、必要な情報を提供していかなければならない。

6（守秘義務）

治療・援助関係の中で得られた情報は守秘されるべきであり、その子どもの精神保健の改善にのみ用いられるべきで、それ以外に使用してはならない。

会員は個人的理由で、また経済的あるいは学問的な利益のために、契約関係にある子どもに関する情報を本人や家族の了解なしに使用することも禁じられる。

守秘義務の不履行は、秘密を保持することによってその子どもや保護者または第3者が重大な身体的・精神的な危害を被る可能性が高い時にのみ妥当とみなされる。しかし、こうした状況の時も、会員はできるだけ子どもがとるべき行動について、先ず子どもまたはその保護者に助言すべきである。

7（職責上の人権侵害行為（パワー・ハラスメント）の禁止）

会員は、いかなる理由があっても職責上、子どもや保護者に対してセクシャル・ハラスメントなどのパワー・ハラスメント行為をしてはならない。また、会員はパワー・ハラスメント行為と誤解されないように自己の行為に対して日常的に配慮する必要がある。

8（研究上の留意事項）

子どもを対象とする研究を行う場合、会員は研究の計画と実施に関する国内または国際的ルールに従う。ここでいう研究とは臨床研究、疫学研究、社会的研究、生物学的基礎研究などを含む。

子どもは、心身ともに急激な発達の途上にあるため、研究対象とする場合には彼らの精神的・身体的安全性についてはもちろんのこと、その自律性の保護には特別な注意を払う必要がある。

会員が研究を行う場合、原則としてその研究計画書を各施設の倫理委員会に提出し、その審議と承認を得てから行わなければならない。

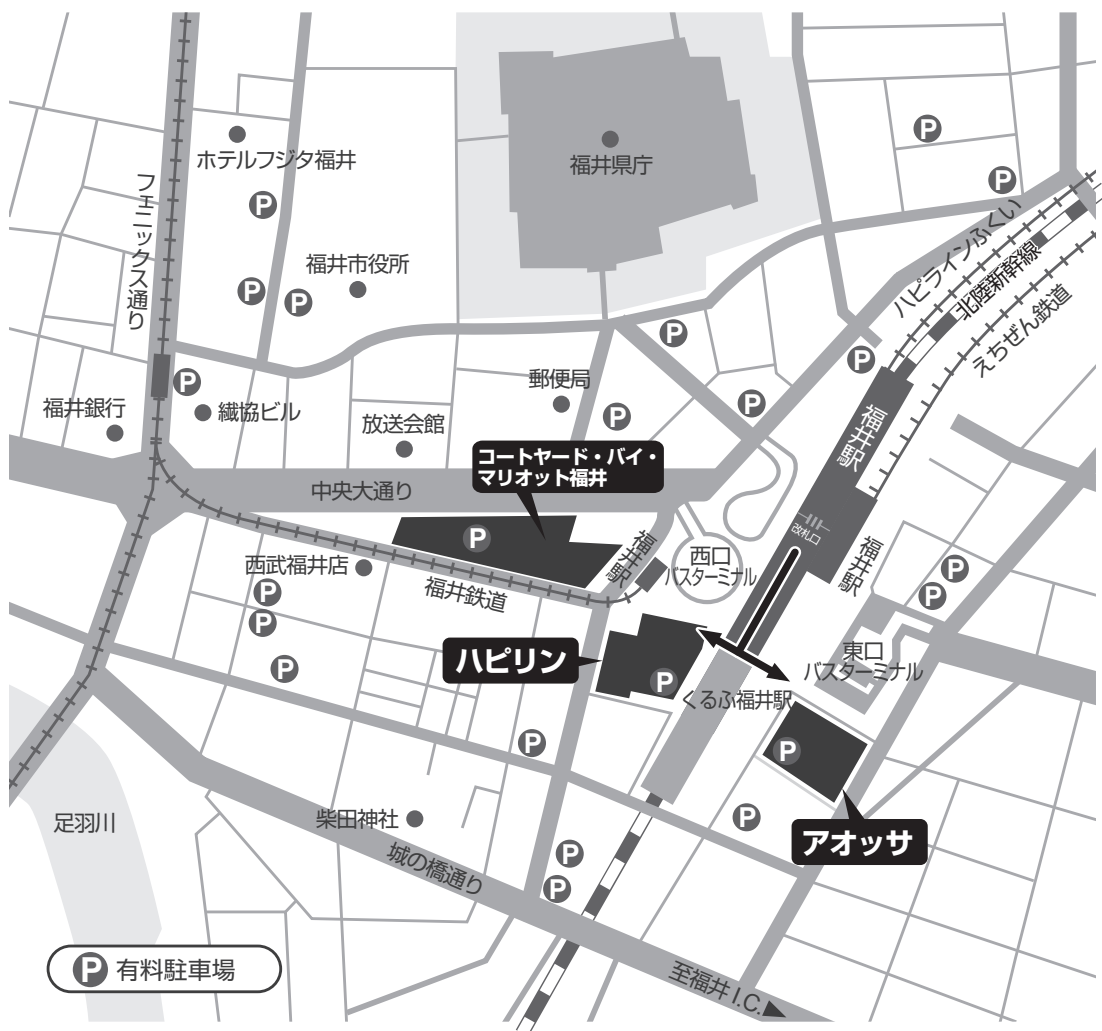
この倫理綱領の内容が、施設における倫理委員会の規定と矛盾する場合には、より患者の利益を優先した判断を下すべきである。

施設内に倫理委員会が設置されていない場合においても、何らかの形で倫理的検討を行う必要があり、その経緯を記録に残す必要がある。

付記

- 1 この学会基本理念と倫理綱領は、国内外における研究と臨床の進展、ならびに関連する領域の規範の変化に応じて、再検討される。
- 2 臨床研究上遵守すべき規範については、日本精神神経学会が承認（1997年5月30日）した「臨床研究における倫理綱領」を当面準用する。
- 3 一般社団法人への変更に伴って平成25年9月8日に改正。

交通アクセス



アオッサ 〒910-0858 福井県福井市手寄1丁目4番1号

ハピリン 〒910-0006 福井県福井市中央1丁目2番1号

コートヤード・バイ・マリオット福井

〒910-0006 福井県福井市中央1丁目3番5号

電車をご利用の方

- ・福井駅東口より 徒歩 1 分
- ・えちぜん鉄道「福井」より 徒歩約 1 分
- ・福井鉄道「福井駅前」より 徒歩約 1 分

バスをご利用の方

- ・「福井駅停留所」より 徒歩約 1 分

高速道路ご利用の方

- ・北陸自動車道「福井IC」より 約 15 分

●アオッサ地下駐車場のご案内

営業時間 7:30～23:30【※時間外は入庫できません。】
 駐車料金 入庫から 30 分間無料
 31分から60分まで 200 円
 (以降 100 円/30 分)
 1 日最大 1,000 円 1 泊料金 500 円

●ハピリンB1F駐車場のご案内

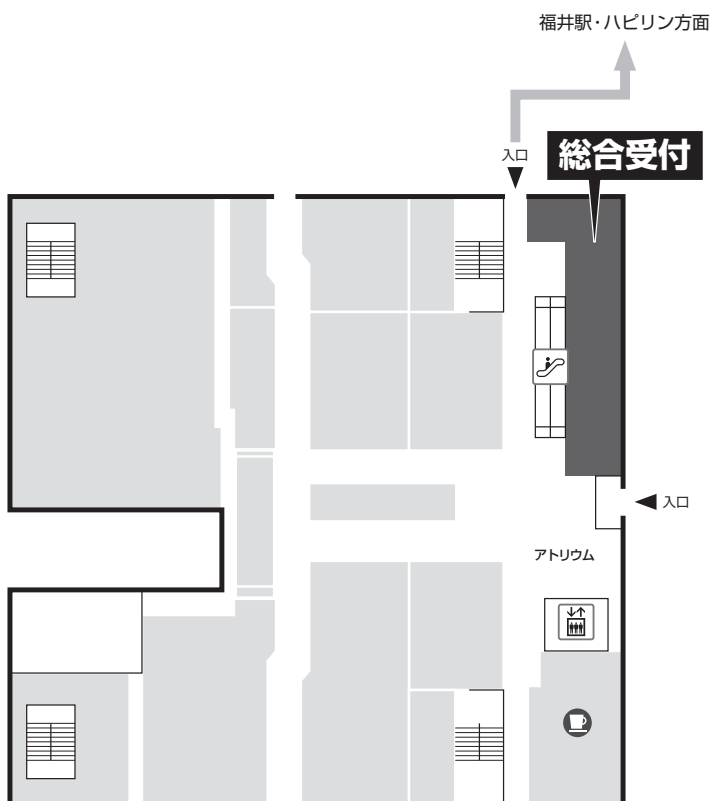
営業時間 7:00～23:00【※時間外は入庫できません。】
 駐車料金 100 円/20 分
 ※B2Fは居住者用です。一般の方はご利用できませんのでご了承ください。

※駐車場・駐輪場の台数には限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。また、周辺にも有料駐車場がございます。

会場案内図 [アオッサ]

1F

アオッサ



6F

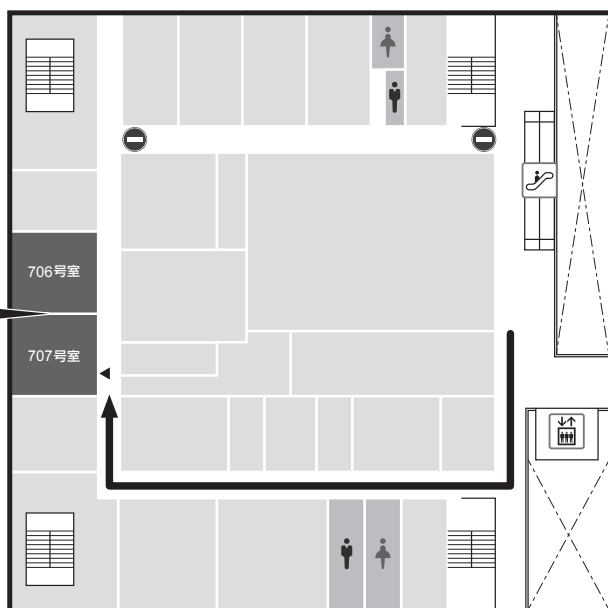
アオッサ



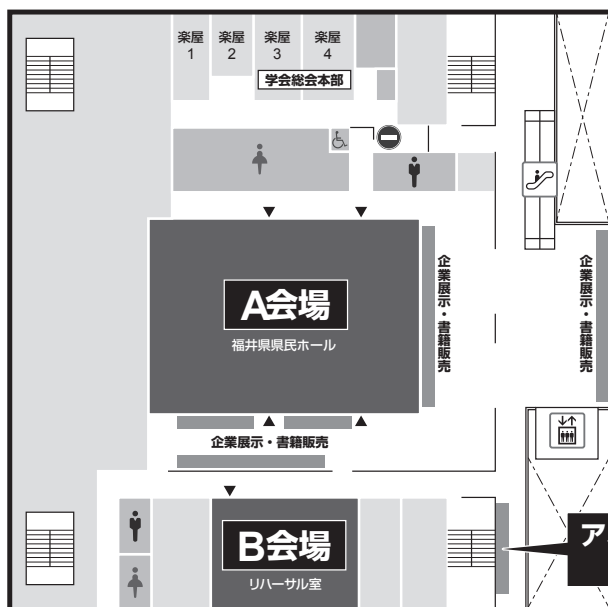
会場案内図 [アオッサ]

7F
アオッサ

C会場



8F
アオッサ

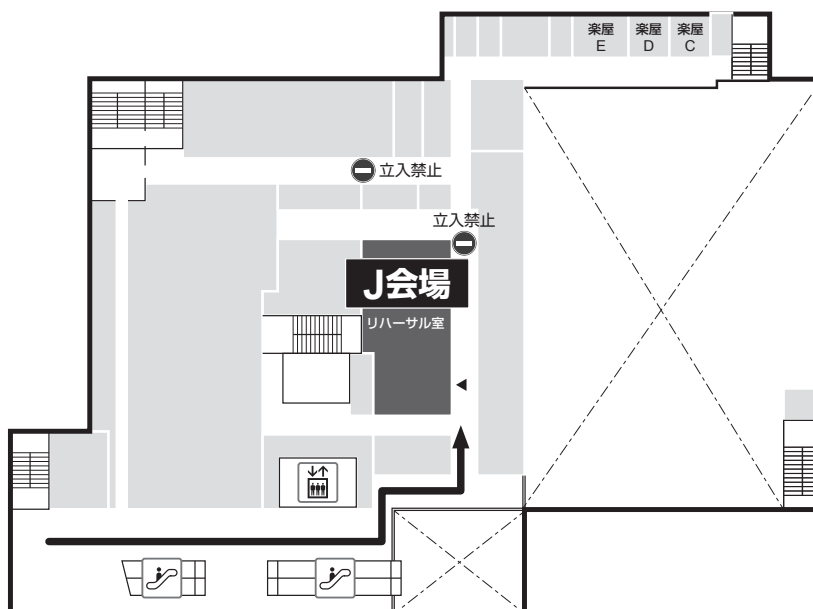


会場案内図 [ハピリン]

3F
ハピリン



4F
ハピリン

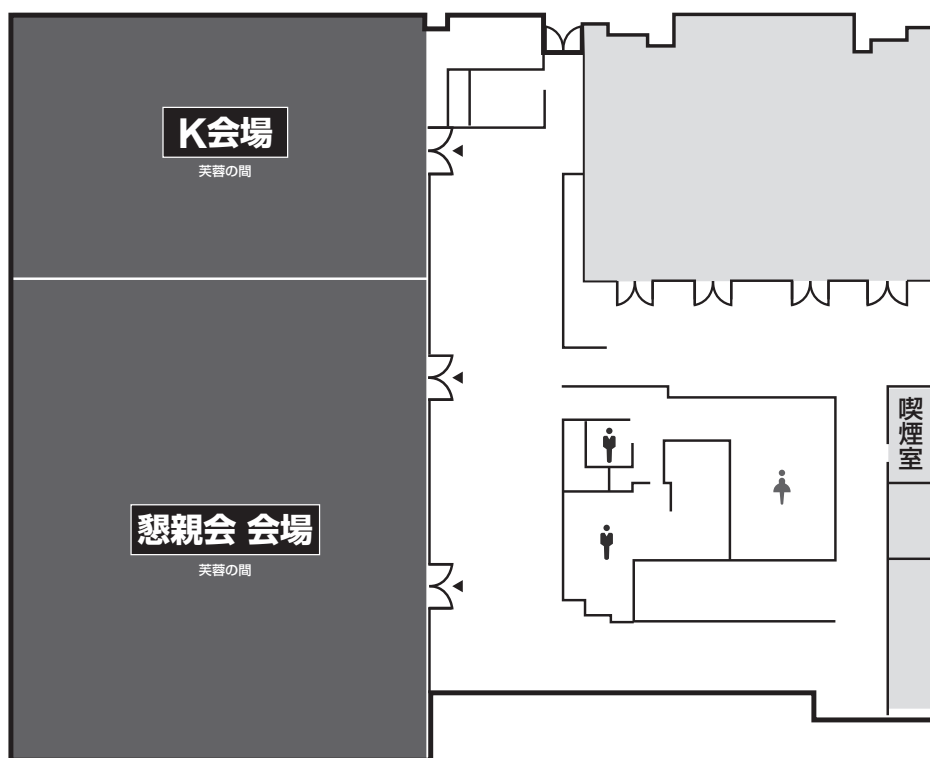


会場案内図 [コートヤード・バイ・マリオット福井]

※総会 2 日目 (11/14) のみ

4F

マリオット



■11月13日(木) 第66回日本児童青年精神医学会総会 日程表

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場
	福井県民ホール	リハーサル室	706・707	601	レクリエーションルーム
	アオッサ 8F	アオッサ 8F	アオッサ 7F	アオッサ 6F	アオッサ 6F
8:00					
8:30					
9:00					
9:30					
10:00					
10:30					
11:00					
11:30				10:30～12:30 代議員会	
12:00					
12:30					
13:00	12:40～13:40 開会式 会員集会				
13:30					
14:00	13:40～14:40 学会賞授与式 学会顕彰記念講演	14:00～15:00 一般口演1 ADHD 1	14:00～15:00 一般口演2 自施設の取組 1	14:00～15:30 心理職・多職種連携委員会 セミナー 自閉スペクトラム症に対す る様々な支援・介入	14:00～15:30 シンポジウム 1 児童と青年のための構造化 面接 K-SADS-PL-5 の臨 床応用
14:30					
15:00	14:50～16:20 シンポジウム3 子どものトラウマ治療技法 としての、 ナラティブ・エクスポー ジャー・セラピーの近年の 展開と有用性	15:10～16:10 一般口演4 ASD1	15:10～16:10 一般口演5 自施設の取組 2	15:40～16:30 教育講演 1 自閉スペクトラム症の カモフラージュ	15:40～17:10 シンポジウム 4 児童精神科医療と 地域資源
15:30					
16:00	16:30～17:30 特別講演1 ～選手育成の最前線 男子バレーのケース～	16:20～17:20 一般口演7 ASD2	16:20～17:20 一般口演8 心理社会的要因	16:40～17:30 教育講演 2 ICT による子どもの心のスク リーニング：現状と未来 への課題	
16:30					
17:00		17:30～19:00 災害対策委員会セミナー 実際に災害が起こった時に、 私たちはどう対応するの か？何ができるのか？ ～南海トラフ地震を 想定して～	17:30～19:00 症例検討1 家族全体に精神疾患を認め た事例における親子同時診 察の有用性と課題	17:40～18:30 教育講演3 未来を紡ぐケアと選択 ～子どもの医療倫理と意思 決定支援～	17:20～18:50 シンポジウム 7 地域特性をふまえた 日本の児童青年期精神科救 急の現状と課題
17:30	17:40～19:10 シンポジウム6 発達障害の子たちが安心して 飛行機に乗れるように する取り組み ～世界に羽ばたけ、日本の 発達障害支援！～				
18:00					
18:30					
19:00					
19:30					
20:00					

[illegible]

■11月14日(金) 第66回日本児童青年精神医学会総会 日程表

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場
	福井県民ホール	リハーサル室	706・707	601	レクリエーションルーム	607
	アオッサ 8F	アオッサ 8F	アオッサ 7F	アオッサ 6F	アオッサ 6F	アオッサ 6F
8:00						
8:30						
9:00						
9:30	9:00～10:30 シンポジウム 9 東日本大震災とその後の自然災害の教訓を踏まえて今後起こりうる災害に備える	9:00～10:30 子どもの人権と法に関する委員会セミナー 共同親権と子どもの人権	9:00～10:00 一般口演 10 ASD 3	9:00～9:50 教育講演 4 算数の不全を伴う限局性学習症の評価	9:00～10:30 シンポジウム 10 児童精神科病棟運用に関する現状と課題～制約ある公的病院でのとりくみ～	
10:00						
10:30			10:10～11:10 一般口演 12 ASD4	10:00～10:50 教育講演 5 摂食症を伴う青年のアセスメントと治療「過食は治る」		10:10～11:10 ポスター 7 心理社会的援助・家族支援 2
11:00	10:40～12:10 シンポジウム 12 子ども・若者の自殺を現場で予防する	10:30～12:00 精神鑑定関連の症例検討			10:40～12:10 シンポジウム 13 医療・教育連携：有機的な連携のあり方とは	
11:30			11:20～12:20 一般口演 14 学校精神保健 1	11:00～11:50 教育講演 6 摂食症治療のすすめ		11:20～12:20 ポスター 11 心理社会的援助・家族支援 3
12:00						
12:30	12:20～13:20 共催セミナー 1 塩野義製薬株式会社			12:20～13:20 共催セミナー 2 ノーベルファーマ株式会社		
13:00						
13:30	13:30～14:30 会長講演 井の中の蛙は誰だ！～児童青年精神医学の世界～			13:30～14:20 教育講演 7 児童福祉法改正、こども基本法によって、現場はどう変わったのか？		
14:00						
14:30						
15:00	14:40～15:40 特別講演 2 青年期の病的体験に関する臨床的研究	14:40～15:40 一般口演 16 摂食症 1	14:40～15:40 一般口演 17 不登校 1	14:40～16:10 シンポジウム 15 児童・思春期のメンタルヘルスと社会的処方：レジストリデータ活用の可能性	14:40～16:10 倫理委員会セミナー カルテ開示についての倫理的課題	14:40～15:40 ポスター 15 基礎研究・脳画像研究など
15:30						
16:00	15:50～17:20 シンポジウム 17 摂食障害の入院治療診療科でどう違う？～小児科、児童精神科、精神科、心療内科、それぞれの強みを活かす～	15:50～16:50 一般口演 19 摂食症 2	15:50～16:50 一般口演 20 不登校 2			15:40～16:10 ポスター撤去 ポスター貼付
16:30						
17:00				16:20～17:50 生涯教育に関する委員会セミナー 児童精神科医への道のりー児童精神科研修の実態ー	16:20～17:50 シンポジウム 18 社会的養護と児童精神科医療の連携について	
17:30		17:00～18:00 一般口演 22 統合失調症圏	17:00～18:00 一般口演 23 心理社会的援助・家族支援 1			
18:00						
18:30						
19:00						
19:30						
20:00						

[illegible]

■11月15日(土) 第66回日本児童青年精神医学会総会 日程表

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場
	福井県民ホール	リハーサル室	706・707	601	レクリエーションルーム
	アオッサ 8F	アオッサ 8F	アオッサ 7F	アオッサ 6F	アオッサ 6F
8:00					
8:30					
9:00					
9:30	9:00～10:30 シンポジウム 20 児童青年期における コンサルテーション・ リエゾン精神医学	9:00～10:00 一般口演 25 摂食症 3	9:00～10:00 一般口演 26 トラウマ 1	9:00～10:30 国際委員会セミナー The impact of the digital society on children's mental health (デジタル社会での子どもの メンタルヘルスへの 影響について)	9:00～10:30 シンポジウム 22 児童青年精神医学 キャリア・カフェ ー寄附講座としての児童 精神医学の研究や臨床・教 育の在り方を検討するー
10:00					
10:30		10:10～11:10 一般口演 28 摂食症 4	10:10～11:10 一般口演 29 トラウマ 2		
11:00	10:40～12:10 シンポジウム 25 性加害少年の実態と 治療について	11:20～12:20 一般口演 31 青年期	11:20～12:20 一般口演 32 地域連携など 1	10:40～12:10 シンポジウム 23 子どもたちの「好き」を みつめる：音楽、アニメ、 ゲーム、ネットの世界	10:40～12:10 教育に関する委員会 セミナー 教育現場で高まる メタルケアニーズと 学校教員支援
12:00					
12:30	12:20～13:20 共催セミナー 4 武田薬品工業株式会社				
13:00					
13:30					
14:00	13:40～14:40 特別講演 3 こどもの自殺対策の現況に ついて	13:30～15:00 薬事委員会セミナー デジタルアプリをいかに 児童青年期の精神科臨床に 用いるのか？	13:30～15:00 症例検討 5 社会的カモフラージュが 破綻し自己表出が困難と なった女性に対する 入院環境での支援	13:30～14:20 教育講演 9 WISC-V の基本事項	13:30～15:00 福祉に関する 委員会セミナー 子どもの声を聴く
14:30					
15:00	15:10～15:40 閉会式				
15:30					
16:00					
16:30					
17:00					
17:30					
18:00					

[illegible]

12:40-13:40

開会式 会員集会

13:40-14:40

学会賞授与式・記念講演

優秀論文賞

児童精神科医療及び精神科救急医療従事者の LGBT への肯定的臨床実践の自己評価に関する横断調査

早川 麻耶 (横浜市立大学医学研究科精神医学教室)

児童精神科病棟における行動制限を受けた児の退院後の適応状況と主観的影響

栗田 真理子 (子どものこころの診療所)

研究奨励賞

注意欠如・多動症と自閉スペクトラム症における共通および特異的な神経基盤:

神経心理学的課題を用いた 243 の機能的核磁気共鳴画像のメタ解析

多門 裕貴 (医療法人社団増田厚生会清川遠寿病院)

不登校開始時期の違いによる児童精神科患者の臨床的特徴について: 単施設症例対照研究

佐々木 祥乃 (東京科学大学精神行動医科学分野)

14:50-16:20

シンポジウム 3

子どものトラウマ治療技法としてのナラティブ・エクスポージャー・セラピーの近年の展開と有用性

司会: 大石 聡 (静岡県立こども病院 こころの診療部こころの診療科)

司会: 八木 淳子 (岩手医科大学 医学部 神経精神科学講座 教授)

S3-1 ナラティブ・エクスポージャー・セラピーという治療技法について (総論)

森 茂起 (甲南大学人間科学研究所)

S3-2 ナラティブ・エクスポージャー・セラピー (以下 NET) の児童精神科医療領域での実践

大石 聡 (静岡県立こども病院 こころの診療部こころの診療科)

S3-3 ナラティブ・エクスポージャー・セラピーの児童福祉施設における実践と課題

中村 有生 (兵庫県立清水が丘学園 治療課)

指定発言: 八木 淳子 (岩手医科大学 医学部 神経精神科学講座 教授)

16:30-17:30

特別講演 1

選手育成の最前線〜男子バレーのケース〜

司会: 小坂 浩隆 (福井大学医学部 精神医学)

演者: 中垣内 祐一 (福井工業大学 スポーツ健康科学部)

17:40-19:10

シンポジウム 6

発達障害の子たちが安心して飛行機に乗れるようにする取り組み～世界に羽ばたけ、日本の発達障害支援！

司会：宮崎 健祐（弘前愛成会病院 精神科）

S6-1 発達障害の子達の飛行機搭乗支援のこれまでと、これから

宮崎 健祐（弘前愛成会病院 精神科）

S6-2 ANA における発達障がい支援について

中野 京子（全日本空輸株式会社 CX 推進室 CX 戦略部）

S6-3 JAL グループにおけるアクセシビリティ向上の取り組みについて

藤田 凌輔（日本航空株式会社 CX 推進部企画推進グループ）

S6-4 自閉症フレンドリーな取り組み―「いとしご」からみなさまへ

木村 一優（医療法人社団新新会 多摩あおば病院 副院長）

1 日目 11 月 13 日（木）B 会場 AOSSA 8F リハーサル室

14:00-15:00

一般口演 1

ADHD 1

司会：片山 寛人（こころとからだクリニック福井）

O1-1 就学前の注意欠如多動症児におけるインターネット親子相互交流療法（I-PCIT）の有効性：ランダム化比較試験

○川崎 雅子^{1,4}、松本 慶太²、毛利 育子⁴、花房 昌美³、三宅 和佳子^{5,6}、下野 九理子⁴、
加茂 登志子^{1,7}、藤野 陽生^{4,8}、橘 雅弥⁴

1. 一般社団法人 日本 PCIT 研修センター、
2. 大阪市立総合医療センター 児童青年精神科、
3. 大阪精神医療センター、
4. 大阪大学大学院連合小児発達学研究所、
5. 兵庫県こころのケアセンター、
6. 大阪母子医療センター、
7. 若松町こころとひふのクリニック、
8. 大阪大学大学院人間科学研究科

O1-2 近年の注意欠如多動症に関連するスティグマ

武田 瑞穂

十文字学園女子大学

O1-3 立位のビデオ撮影による注意欠如多動症における多動の定量評価

○六田 泰央¹、山田 晶子⁵、森本 佳奈¹、佐々木 彩恵子⁸、才田 晴奈⁴、宇留野 圭⁷、砂田 桃⁶、
栗添 恵理³、山田 真穂³、長尾 海里⁶、戸瀬 景栄²、稲葉 啓通²、義村 さや香⁵、磯部 昌憲²、上月 遥²、
村井 俊哉¹

1. 京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座（精神医学）、
2. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科、
3. 京都大学医学部附属病院 臨床心理室、
4. 京都大学大学院医学研究科 発達小児科学、
5. 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 先端作業療法学講座、
6. 稲門会 いわくら病院、
7. 洛和会音羽病院 小児科、
8. 京都大学医学部附属病院 小児科

O1-4 当クリニックでの注意欠如多動症に対する中枢刺激剤治療を振り返る第 1 報：短時間作動型 Methylphenidate から長時間作動型 Methylphenidate に切り替えた 72 例の検討より

○平谷 美智夫¹、小坂 拓也^{1,2}、前田 夢吉^{1,2}、平谷 清吾^{1,3}、滝口 慎一郎¹

1. 平谷こども発達クリニック、
2. 福井大学医学部小児科、
3. 松原病院精神科

O1-5 当クリニックでの注意欠如多動症に対する中枢刺激剤治療を振り返る第 2 報：メチルフェニデート徐放錠からリスデキサンフェタミンメシル酸塩カプセルに切り替えた 156 例の検討より

○滝口 慎一郎¹、小坂 拓也^{1,3}、前田 夢吉^{1,3}、平谷 清吾^{1,2}、平谷 美智夫¹

1. 平谷こども発達クリニック、
2. 松原病院精神科、
3. 福井大学医学部小児科

15:10-16:10

一般口演 4

ASD 1

司会：磯部 昌憲（京都大学医学部附属病院）

04-1 自閉スペクトラム症を背景に自殺企図をきたした高校 2 年生の治療を通じて

○高橋 有樹^{1・2}、佐々木 祥乃²

1. 稲城台病院、2. 東京科学大学病院

04-2 繰り返す自殺企図の対応に苦慮した自閉スペクトラム症の一例

○山田 真穂^{1・5}、栗添 恵理^{1・5}、山本 沙也加⁶、辻元 健太郎²、柴田 直人^{4・5}、米田 拓矢^{3・5}、上月 遥^{2・5}、村井 俊哉²、磯部 昌憲^{2・5}

1. 京都大学医学部附属病院 臨床心理室、2. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科、
3. 京都大学医学部附属病院 精神科相談室、4. 京都大学医学部附属病院 デイケア診療部、
5. 京都大学医学部附属病院 児童思春期こころの相談センター、
6. 京都女子大学大学院こころの相談室

04-3 Early Start Denver Model (ESDM) による介入時のアイコンタクトおよび発声の継時的変化

○館農 幸恵¹、山本 彩²、白石 映里¹、下村 遼太郎¹、南波 江太郎¹、館農 勝¹

1. ときわこども発達センター、2. 札幌学院大学

04-4 自閉スペクトラム症幼児の支援効果をどう測るか：生理指標 Gaze Finder と心理検査の比較検討

○黒田 美保¹、浜田 恵²

1. 田園調布学園大学、2. 中京大学

04-5 目領域注視時の瞳孔径変化の大きさと社会的情報への注視の関連性

○藤岡 徹^{1・2・3}、小坂 浩隆^{2・3・4・5}

1. 福井大学教育学部、2. 連合小児発達学研究科、3. 福井大学病院子どものこころ診療部、
4. 福井大・子どものこころの発達研究センター、5. 福井大学医学部精神医学

16:20-17:20

一般口演 7

ASD 2

司会：川谷 正男（福井県こども療育センター）

07-1 「支援が繋がる」連携

ー自閉スペクトラム症（以下 ASD）男児への 10 年間の支援の連携事例を通してー

○久賀谷 洋¹、田中 一史²

1. オフィスぼん、2. 京都市児童福祉センター

07-2 自閉スペクトラム症における風景構成法の描画表現

○栗添 恵理¹、六田 泰央³、山田 真穂¹、櫻田 千早⁸、長尾 海里⁶、山本 沙也加⁷、才田 晴奈⁴、
佐々木 彩恵子⁴、宇留野 圭⁵、戸瀬 景茉²、上月 遥²、磯部 昌憲²、村井 俊哉²

1. 京都大学医学部附属病院 臨床心理室、2. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科、
3. 京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座、4. 京都大学医学部附属病院 小児科、
5. 洛和会音羽病院 小児科、6. いわくら病院 臨床心理室、
7. 京都女子大学大学院 こころの相談室、8. 東京科学大学病院 精神科

07-3 ASD 疑いの乳幼児に対する「既製品おもちゃ」による遠隔早期療育

○太田 英伸、JST COI stream group

1. 秋田大学大学院 医学系研究科 作業療法学講座

07-4 少子高齢化の進む小規模自治体における発達支援事業の効果検証：ソーシャルスキル・トレーニング事業に関するインタビュー調査

○金納 史佳^{3・4}、義村 さや香^{1・4・5}、志澤 美保²

1. 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系 先端作業療法学講座、
2. 京都府立大学医学部看護学科、3. 佛教大学、4. 京都大学医学研究科 ASD project、
5. 神経発達症研究推進機構

17:30-19:00

災害対策委員会セミナー

実際に災害が起こった時に、私たちはどう対応するのか？何ができるのか？ー南海トラフ地震を想定してー

司会：伊藤 一之（静岡県立こども病院）

司会：田中 恭子（国立病院機構 菊池病院）

CS2-1 実際に災害が起こった時、児童精神科専門医療機関として何ができるのか？

ー Business continuity planning の見直しからー

中西 大介（三重県立子ども心身発達医療センター）

CS2-2 児童相談所の立場から

吉川 徹（愛知県西三河福祉相談センター児童専門監）

CS2-3 大規模災害における学校での支援と南海トラフに向けての準備

小林 朋子（静岡大学教育学部・静岡大学防災総合センター）

14:00-15:00

一般口演 2

自施設の取組 1

司会：小野 真樹（愛知県医療療育総合センター中央病院）

02-1 東日本大震災後に出生した子どもを持つ家庭におけるトラウマ症状の推移の同定と、子どもへの関連の検討

○千葉 柊作^{1・2}、八木 淳子^{1・3}、山家 健仁^{1・3}、内出 希^{1・3}、吉岡 靖史^{1・3}、松尾 菜津美^{1・3}、
福地 成^{4・5}、榎屋 二郎⁶、松浦 直己⁷

1. 岩手医科大学附属病院 児童精神科、
2. 東北大学大学院教育学研究科、
3. 岩手医科大学 神経精神科学講座、
4. 東北医科薬科大学医学部 神経科学教室、
5. 公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター、
6. 東京医科大学医学部、
7. 三重大大学教育学部

02-2 知的発達症入所施設における薬物療法の経年変化

高橋 和俊

ゆうあい会石川診療所

02-3 長浜赤十字病院における過去3年間の自殺関連事象による未成年の救急受診患者の傾向と包括的支援の取り組み

○沖野 剛志、池田 仁

長浜赤十字病院 精神神経科

02-4 児童心理治療施設における成長鈍化の実態と背景因子の検討

倉田 和美

国際医療福祉リハビリテーションセンター なす療育園

02-5 性虐待を受けた児童思春期入院患者における診断と初動対応の実態

○神蘭 淳司¹、安部 泰弘¹、植木 悠介¹、梶原 眞理¹、坂本 奈緒²、大治 太郎¹

1. 社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院、
2. 医療法人横田会 光陽台病院

15:10-16:10

一般口演 5

自施設の取組 2

司会：林 みづ穂（仙台市精神保健福祉総合センター）

05-1 ゲーム障害に関する集団プログラムに遊びを取り入れて

藤木 幸司

大阪精神医療センター

05-2 岩手医科大学附属病院児童精神科におけるトラウマ関連症状を有する入院患者への TF-CBT の有効性の検討

○石山 雄大^{1・2}、山家 健仁^{1・2}、内出 希^{1・2}、吉岡 靖史^{1・2}、千葉 柊作²、小川 香織²、松尾 菜津美^{1・2}、佐々木 夢佳^{1・2}、安藤 佑祥^{1・2}、八木 淳子^{1・2}

1. 岩手医科大学医学部神経精神科学講座、2. 岩手医科大学附属病院児童精神科

05-3 小集団でのサポートブック作成による障害受容段階に応じた保護者支援の取り組み

○森 麻子

大阪精神医療センター

05-4 いちかわこころの相談所むすび葉における保護者支援の在り方

～保護者の初回面接の語りに関する質的調査～

○忍足 美良乃¹、渡邊 未来¹、二宮 宗三^{1・2}、篠原 玲奈²、砂川 ひかる^{2・3}、川添 万菜²、田岡 由紀子^{2・4}、牛島 洋景²

1. いちかわこころの相談所むすび葉、2. うしじまこころの診療所、

3. 国立病院機構下志津病院、4. 船橋市総合教育センター

05-5 精神科児童思春期患者における作業療法介入の意義

○白戸 晶¹、山田 智子²

1. 社会医療法人居仁会 総合心療センターひながリハビリテーション部 作業療法課、

2. 社会医療法人居仁会 総合心療センターひなが 児童精神科

16:20-17:20

一般口演 8

心理社会的要因

司会：森岡 由起子（聖学院大学心理福祉学研究科）

08-1 機能性難聴を呈する子どもの神経発達症傾向および心理社会的要因に関する検討

○松本 恵^{1・2}、中川 あや³、藤野 陽生^{1・7}、三好 紀子⁴、木村 亮^{2・5・6}

1. 大阪大学大学院人間科学研究科、2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 生命情報学、
3. 市立池田病院、4. ためなが温泉病院、5. 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学、
6. 大阪大学 医学部附属病院子どものこころの診療センター、
7. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科

08-2 成人発達障害における逆境的小児体験（Adverse Childhood Experience：ACE）の痕跡 2

○榎戸 美佐子¹、角谷 陽平²、谷口 園子¹、米本 智美¹、大田垣 昂¹、藤田 宗久¹、松田 文恵¹

1. 医療法人社団和敬会 谷野呉山病院、2. 医療法人社団和敬会 谷野医院

08-3 逆境的小児期体験（ACE）を有した若年妊娠女児との治療経過

～“子育て”に向けての包括的支援がもたらしたこと～

○柳下 杏子^{1・2}、大橋 真季¹、柳下 道子¹

1. 社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター、2. 社会医療法人財団松原愛育会 松原病院

08-4 家族構造と家族機能による思春期患者に対する影響についての予備研究

坂本 和海

神奈川県立精神医療センター

17:30-19:00

症例検討 1

司会：河邊 憲太郎（愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座）

スーパーバイザー：松本 英夫（医療法人 丹沢病院）

C1-1 家族全体に精神疾患を認めた事例における親子同時診察の有用性と課題

片山 寛人

医療法人カンマ こころとからだクリニック福井

1 日目 11 月 13 日（木）D 会場 AOSSA 6F 福井市地域交流プラザ 研修室 601

10:40-12:40

代議員会

14:00-15:30

心理職・多職種連携委員会セミナー

自閉スペクトラム症に対する様々な支援・介入

司会：大賀 肇（三河病院）

司会：福田 理尋（岡山県精神科医療センター）

CS1-1 自閉スペクトラム症の超早期療育ー自然な発達行動介入（NDBI）とその一種であるアーリー・スタート・デンバー・モデル（ESDM）についてー

桑野 恵介（株式会社スペクトラムライフ）

CS1-2 自閉スペクトラム症の子どもの不安症状に対する認知行動療法

石川 信一（同志社大学心理学部）

CS1-3 UCLA PEERSR® 友だち作りの SST

山田 智子（枚方市教育委員会）

CS1-4 自閉スペクトラム症の子どもの入院治療における生活支援

則村 良（医療法人財団青溪会駒木野病院）

15:40-16:30

教育講演 1

自閉スペクトラム症のカモフラージュ

司会：山崎 史暁（千葉大学医学部附属病院 こどものこころ診療部）

演者：大島 郁葉（千葉大学 こどものこころの発達教育研究センター）

16:40-17:30

教育講演 2

ICT による子どもの心のスクリーニング：現状と未来への課題

司会：足立 匡基（明治学院大学 心理学部）

演者：和久田 学（公益社団法人子どもの発達科学研究所 研究局）

17:40-18:30

教育講演 3

未来を紡ぐケアと選択～子どもの医療倫理と意思決定支援～

司会：中土井 芳弘（独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター児童精神科）

演者：笹月 桃子（早稲田大学 人間科学学術院）

14:00-15:30

シンポジウム 1

児童と青年のための構造化面接 K-SADS-PL-5 の臨床応用

司会：眞田 陸（福井大学 医学部精神医学）

司会：永田 利彦（壺燈会 なんば・ながたメンタルクリニック）

S1-1 なぜ半構造化面接か？：児童青年精神科診断における役割と進化

西山 毅（名古屋市立大学大学院 医学研究科公衆衛生学 准教授）

S1-2 構造化面接 K-SADS-PL-5 による行動障害の評価

東 琢磨（福井県立病院 こころの医療センター）

S1-3 構造化面接 K-SADS-PL-5 による不安症の評価

牧野 拓也（福井大学医学部附属病院 精神医学）

S1-4 構造化面接 K-SADS-PL-5 による抑うつ症と双極症の評価

鈴木 太（上林記念病院 こども発達センターあおむし）

指定発言：永田 利彦（壺燈会 なんば・ながたメンタルクリニック）

15:40-17:10

シンポジウム 4

児童精神科医療と地域資源

司会：山本 啓太（国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター ソーシャルワーク室 ソーシャルワーカー（医療社会事業専門職））

司会：吉村 裕太（福岡大学病院 精神医学教室 助教）

S4-1 能登半島基部の私立大学病院精神科が抱える地域連携の課題

木原 弘晶（金沢医科大学病院 精神神経科学 学内講師）

S4-2 地域の精神科単科病院における児童精神科診療の現状と課題

川原 一洋（医療法人信愛会 玉名病院 精神科・児童精神科 院長）

S4-3 児童精神保健福祉領域における地域資源について

原田 郁大（久留米市西部障害者基幹相談支援センター）

S4-4 地域資源としてのカウンセリングルーム―保護者支援の実践から見えた役割―

二宮 宗三（いちかわこころの相談所 むすび葉 所長）

17:20-18:50

シンポジウム 7

地域特性をふまえた日本の児童青年期精神科救急の現状と課題

司会：藤田 純一（横浜市立大学附属病院 児童精神科）

司会：八木 淳子（岩手医科大学 医学部 神経精神科学講座）

S7-1 地方都市における精神科救急での子ども支援の現状

～病院・地域全体で子どもを支える治療文化の醸成を目指して～

齊藤 慧（岡山県精神科医療センター 医局）

S7-2 都市部精神科救急における子どもの支援 ― 地方の実践に学ぶ

廣内 千晶（横浜市立大学附属市民総合医療センター 精神医療センター 児童精神科）

S7-3 子ども救急の実態や課題～地方の精神科単科病院の立場から～

佐久間 陸貴（社会医療法人あさかホスピタル 児童思春期診療部 部長）

S7-4 地方の大学病院の立場から～児童精神科救急システムと初期対応、実態、専門療法への道筋～

内出 希（岩手医科大学 医学部神経精神科学講座 講師）

14:00-15:00

ポスター 1

入院治療

司会：荻野 和雄（福井厚生病院 ストレスケアセンター）

P1-1 神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科入院治療における身体的拘束の現状について

○豊原 公司¹、栗原 太郎¹、永井 直子¹、浅川 嵩識¹、前川 優介¹、鈴木 悠¹、尾野 美奈子¹、
山本 恭平²、庄 紀子¹

1. 神奈川県立こども医療センター、2. 大内病院 精神科

P1-2 阪南病院児童精神科専門病棟での患者ースタッフミーティング導入の報告

○飯塚 理、吉川 陽子、中井 大貴、魚住 広之、橋本 亮、山本 直毅、田村 和世、後藤 彩子、松島 章晃、
横田 伸吾、黒田 健治

社会医療法人杏和会 阪南病院

P1-3 児童精神科病棟における集団療法プログラムの取り組み

○西村 翔、石田 喜子、堀井 一希

大阪市立総合医療センター 児童青年精神科

P1-4 神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科入院治療における隔離の現状と課題

○栗原 太郎、豊原 公司、永井 直子、浅川 嵩識、前川 優介、鈴木 悠、尾野 美奈子、庄 紀子
神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科

P1-5 大学病院精神科閉鎖病棟における小規模児童ユニット（4床）の運用の現状と課題

○島内 智子、小野 和哉、塚原 さち子、根本 泰明

聖マリアンナ医科大学 神経精神科

14:00-15:00

ポスター 19

ASD 7

司会：大嶋 正浩（医療法人社団至空会 メンタルクリニック・ダダ）

P19-1 発達障害児の障害児サービス利用に係るアセスメントシートの有用性に関する検討：医療従事者におけるインタビュー調査

○内山 登紀夫¹、下野 九理子²、宇野 洋太³、稲田 尚子⁴

1. 福島学院大学福祉心理学科、2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科、

3. 大正大学カウンセリング研究所、4. 臨床心理学部 臨床心理学科

P19-2 発達障害児の障害児サービス利用に係るアセスメントシートの有用性に関する検討：共通理解を目指す

○稲田 尚子¹、内山 登紀夫²、小林 真理子³、下野 九理子⁴、川島 慶子²、宇野 洋太⁵

1. 大正大学臨床心理学部臨床心理学科、2. 福島学院大学、3. 山梨英和大学、4. 大阪大学、

5. よこはま発達クリニック

P19-3 発達障害児の障害児サービス利用に係る「こどもの状態と環境のサマリーシート※1」（以下サマリーシート）の有用性に関する検討：自治体におけるインタビュー調査

○小林 真理子¹、武部 正明²、槻館 尚武¹、稲田 尚子³、川島 慶子⁴、鈴木 さとみ⁴、
内山 登紀夫⁴

1. 山梨英和大学、2. 相模女子大学、3. 大正大学、4. 福島学院大学

P19-4 イングランドにおける発達障害の子どもを対象にした福祉サービスのシステムと課題－日本の障害児支援福祉制度との比較検討

○伊瀬 陽子¹、内山 登紀夫²、蜂矢 百合子³、川島 慶子²、鈴木 さとみ²

1. 福島県総合療育センター / 福島県発達障がい者支援センター、

2. 福島学院大学、3. よこはま発達クリニック

15:10-16:10

ポスター4

乳幼児・逆境体験

司会：太田 英伸（秋田大学大学院 医学系研究科作業療法学講座）

P4-1 受給者証の有無による身体発育の違い～乳幼児を対象に～

木村 拓磨

東海学園大学

P4-2 5歳児の睡眠や行動の問題とヘモグロビン・血清鉄・フェリチンとの関連

○吉田 和貴^{1,2}、斉藤 まなぶ³、照井 藍¹、坂本 由唯⁴、大里 絢子³、中村 和彦¹

1. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、2. 医療法人社団聖康会 聖康会病院、
3. 弘前大学大学院保健学研究科心理支援科学領域、4. 弘前大学医学部附属病院神経科精神科

P4-3 改訂版 思春期の親子間相互交流尺度（母親版）の開発

○柴田 康順¹、佐藤 篤司²、福榮 太郎³

1. 大正大学、2. 国際医療福祉大学、3. 横浜国立大学

P4-4 医療少年院における ACE（児童期逆境体験）と PCE（児童期肯定的体験）調査

○小野 剛^{1,2}、池田 有里¹

1. 東日本少年矯正医療・教育センター、2. 北里大学病院

P4-5 児童精神科病棟の入院治療で小児期肯定的体験（PCE）が子どもに及ぼす影響

○吉田 奈緒美¹、早川 宜佑¹、岩垂 喜貴¹、岡野 恵里香¹、清水 圭祐²、笠原 麻里¹

1. 医療法人財団青溪会 駒木野病院、2. 医療法人社団永生会 南多摩病院

14:00-15:00

ポスター 2

摂食症 5

司会：岡本 百合（広島大学保健管理センター）

P2-1 描画を用いた外在化が有効であった回避・制限性食物摂取症の1例

○平澤 桃子、森崎 敦夫、長沢 崇

東京都立小児総合医療センター 児童思春期精神科

P2-2 児童思春期の回避・制限性食物摂取症（ARFID）における複数同時期入院で認められた病理特性—神経性やせ症（AN）との比較と分裂（split）の防衛機制からの検討—

○塚原 さち子^{1,2}、根本 泰明^{1,2}、島内 智子²、小野 和哉²

1. 聖マリアンナ医科大学病院 精神療法・ストレスケアセンター、

2. 聖マリアンナ医科大学 神経精神科

P2-3 児童精神科クリニック外来における回避性/制限性食物摂取障害（ARFID）の臨床的考察

佐竹 宏之

さたけこども発達クリニック

P2-4 回避・制限性食物摂取症（ARFID）の臨床的特徴—神経性やせ症（AN）と比較して

○山中 清里¹、水井 亮¹、平井 靖明¹、北野 肖奈¹、川西 悠加²、生野 兼広¹、安田 真和¹、浅野 雅稔³、土居 史磨¹、野村 政彰⁴、神川 浩平⁵、山口 泰成⁶、山室 和彦^{1,7}、浦谷 光裕⁸、太田 豊作⁹、岡田 俊¹

1. 奈良県立医科大学附属病院精神科、2. 東大阪市立障害児者支援センター、

3. やまと精神医療センター 精神科、4. 医療法人 祥風会 甘木病院 精神科、

5. 奈良県総合医療センター 精神科、6. やまぐちメンタルクリニック奈良真美ヶ丘、

7. 奈良県立医科大学 健康管理センター、8. 万葉クリニック 子どものこころセンター絆、

9. 奈良県立医科大学 人間発達学

P2-5 18歳未満の食行動症および摂食症群の患者における入院/再入院/死亡リスクについての検討

○平井 靖明¹、水井 亮¹、北野 肖奈¹、山中 清里¹、生野 兼広¹、衛藤 弓真²、宮崎 茉衣³、杉山 龍⁴、安田 真和¹、土居 史磨¹、金田 東奎⁵、山室 和彦^{1,6}、浦谷 光裕⁷、太田 豊作⁸、岡田 俊¹

1. 奈良県立医科大学 精神医学講座、2. 奈良県総合リハビリテーションセンター 精神科、

3. 天理よろづ相談所病院 精神神経科、4. やまと精神医療センター 精神科、

5. 岸和田こころのホスピタル、6. 奈良県立医科大学 健康管理センター、

7. 万葉クリニック 子どものこころセンター絆、8. 奈良県立医科大学 人間発達学

15:10-16:10

ポスター 5

摂食症 6

司会：天野 雄平（各務原病院）

P5-1 解離症状を呈した神経性やせ症の女児の入院治療

○野村 由紀¹、箱島 有輝²、稲崎 久美²、水本 有紀²、橋本 彩加²、山本 啓太²、宇佐美 政英²

1. 医療法人社団大和会 大内病院、2. 国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター

P5-2 小児総合病院における摂食障害の病型と提供された治療の場について

～静岡県立こども病院における外来/児童精神科病棟/一般小児科病棟での実践

○伊藤 一之、大石 聡、渥美 委規、八木 敦子、氏家 紘平、増田 直哉

1. 静岡県立こども病院 こころの診療科

P5-3 神経性やせ症における脳由来神経栄養因子（m-BDNF）の可逆的変化と体組成との関連：治療介入前後および健常対照群との比較

○小和田 航太郎¹、中道 秀尚³、幅田 加以瑛¹、塩津 大地²、牧野 拓也⁴、水野 有香¹、眞田 陸¹、神谷 拓¹、高木 大輔³、小坂 浩隆¹

1. 福井大学病院医学部附属病院神経科精神科、2. 鹿児島県立始良病院、

3. 福井大学子どものこころの発達研究センター、4. 福井大学医学部附属病院

14:00-15:00

ポスター 3

ADHD 2

司会：関口 典子（兵庫県立こども病院）

P3-1 奈良県立医科大学附属病院精神科児童思春期外来における注意欠如多動症に対するメチルフェニデートの使用状況について

○北野 肖奈¹、土居 史磨¹、水井 亮¹、山中 清里¹、生野 兼広¹、安田 真和¹、平井 靖明¹、赤木 優月²、吉原 尊浩³、神川 浩平⁴、濱野 泰光¹、石岡 希望⁵、岡崎 康輔⁶、山室 和彦⁷、浦谷 光裕⁸、太田 豊作⁹、岡田 俊¹

1. 奈良県立医科大学精神医学講座、2. 天理よろづ相談所病院精神神経科、
3. 秋津鴻池病院精神科、4. 奈良県総合医療センター精神科、
5. 奈良県総合リハビリテーションセンター精神科、
6. ハートランドしぎさんこどものこころ診療センター、
7. 奈良県立医科大学健康管理センター、8. 万葉クリニック子どものこころセンター絆、
9. 奈良県立医科大学看護学科人間発達学

P3-2 新型コロナウイルス禍における注意欠如多動症児の内在化・外在化問題行動と 祖母のソーシャルサポート、COVID-19 の影響による母親の精神症状、養育態度との関連

○小谷 暁子¹、新谷 美穂子¹、石川 菜津美¹、金生 由紀子^{1・3・4}、石井 礼花^{1・2・3}

1. 東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部、2. 東京医科大学 精神医学分野、
3. 国立精神・神経医療研究センター（知的発達障害研究部）、4. 全国療育相談センター

P3-3 日本語版 Adult ADHD Self-Report Scale-6 (ASRS-J-6) の青年期への適用可能性：ADHD Rating Scale-5 を基準とした妥当性・信頼性の検証

○小野沢 祐哉¹、井出 草平^{2・3}、眞田 陸³、加藤 充訓¹、鈴木 太¹

1. 社会医療法人杏嶺会上林記念病院、2. 多摩大学情報社会学研究所、
3. 福井大学医学部精神医学

P3-4 注意欠如多動症 (ADHD) 特性と日常生活行為による負荷に関連した疲労感

○仲田 真理子¹、瀬戸川 剛^{2・3}

1. 筑波大学 行動神経内分泌学研究室、2. 富山大学・医学部、
3. 富山大学・アイドリング脳科学研究センター

P3-5 ADHD 特性をもつ人の青年期・成人期初期における発達上の特徴

～他の発達特性の併存、診断閾値下を含めて～

○篠田 菜々¹、篠田 直子²、篠田 晴男³

1. 千葉大学大学院 医学研究院 認知行動生理学、2. 信州大学 学術研究院教育学系、
3. 立正大学 心理学部

15:10-16:10

ポスター 6

ADHD 3

司会：堀内 真希（公益財団法人 松原病院 精神科・神経科）

P6-1 メチルフェニデートおよびリスデフィサンキサミンの投与により幻覚妄想が出現した ADHD 女児の一例

○石津 良子、會田 千重、大坪 建、佐川 陽子、瀬口 康昌、浪花 孝明、諸岡 知美、山下 葉子、山元 美和子、三好 紀子、近藤 萌
肥前精神医療センター

P6-2 通常学級に通う児童における睡眠習慣と注意欠陥・多動性障害症状の縦断的関連性

○武貞 真未¹、菊知 充^{1・2}

1. 金沢大学 子どものこころの発達研究センター、2. 金沢大学 医学系精神行動科学

P6-3 留学生における ADHD 特性の臨床的検討

ー診断補助として CAARS を用いた事例の後方視的調査からー

○小川 しおり¹、山脇 かおり²

1. 名古屋大学 総合保健体育科学センター、

2. 国立障害者リハビリテーションセンター病院 小児科・児童精神科

P6-4 大規模レセプトデータベースを用いた国内における注意欠如・多動症治療薬の単剤処方率及び併用処方の実態

○鈴木 龍太郎^{1・2・3・4}、稲田 健^{1・2}

1. 北里大学医学部 地域児童精神科医療学、2. 北里大学医学部精神科学、

3. 北里大学大学院医療系研究科、4. 明治薬科大学 公衆衛生・疫学研究室

P6-5 注意欠如多動症の描画特徴に関するレビュー

○武田 俊信

龍谷大学心理学部

1日目 11月13日（木）I会場 ハピリン 3F ハピリンホール

14:00-15:30

シンポジウム 2

子どもの性別違和

司会：館農 勝（さっぽろ悠心の郷 ときわ病院 ときわこども発達センター）

司会：松本 洋輔（岡山大学学術研究院医療開発領域 ジェンダーセンター 講師）

S2-1 小児期・思春期の性別違和・性別不合と日本精神神経学会・日本 GI 学会の「性別不合に関する診断と治療のガイドライン第5版（2024年）」について

松本 洋輔（岡山大学学術研究院医療開発領域 ジェンダーセンター 講師）

S2-2 子どもの性別違和への医療支援の実際

康 純（関西大学 保健管理センター）

S2-3 性的マイノリティが疑われる子どもへの幼児期、学齢期の所属での支援

中山 浩（川崎市南部児童相談所 児童精神 担当部長）

S2-4 ジェンダーが多様な子どもたちの個性をコミュニティで見守ること

ー医療的診断やケアにかかる手前の心理的支援ー

吉野 真紀（日本福祉大学 教育・心理学部 心理学科 教授）

15:40-17:10

シンポジウム 5

子どもの性被害への対応と治療 ～性被害ワンストップセンターとの連携を巡って

司会：定本 ゆきこ（京都少年鑑別所 医務課 医務課長）

司会：庄 紀子（神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科 部長）

S5-1 性暴力・性犯罪被害者のためのワンストップ支援センターと連携した、子どもの性被害の治療・支援の現状と課題

古橋 功一（藤田医科大学 医学部精神神経科学講座 准教授）

S5-2 『日本のCAC（チルドレンズ・アドボカシー・センター）の現状と課題』

田崎 みどり（子どものこころとからだのクリニック CAC かながわ）

S5-3 性暴力被害者のためのワンストップセンターにおける子どもの性被害への支援の現状と課題

周藤 由美子（ウィメンズカウンセリング京都 京都 SARA）

17:20-18:50

シンポジウム 8

神経発達症のある子をもつ親の様々な状況－親の障害受容・親支援 再考

司会：太田 豊作（奈良県立医科大学 人間発達学）

司会：眞田 陸（福井大学 医学部精神医学）

S8-1 神経発達症のある子をもつ親の様々な状況

阪上 由子（滋賀医科大学 小児科学講座（小児発達支援学部門）特任准教授）

S8-2 見えにくい SOS－神経発達症のある子を育てる親の不安と抑うつ

増田 史（滋賀医科大学 精神医学講座）

S8-3 神経発達症のある子どもの支援に向かう親たち－ペアレント・トレーニングに参加する親の心理－

久保 信代（関西福祉科学大学 心理科学部 心理科学科 教授）

S8-4 親と子、それぞれの語る QOL：ASD 児の心理的支援に向けた多面的アプローチ

山室 和彦（奈良県立医科大学 健康管理センター・精神医学講座）

14:00-15:00

一般口演3

素行症・児童相談所

司会：柴田 真理子（豊中市児童相談所）

03-1 支援方針を理解・受容することが困難な養育者への、児童福祉司などとの協働による視覚的援助ツールを用いた支援の試み

○境 玲子、中山 浩

川崎市南部児童相談所

03-2 一般成人病棟における素行症の児童期患者の診療において保護室は有用か

○工藤 紀和¹、内田 裕子³、辻元 健太郎^{1・2}、栗添 恵理^{2・4}、佐々木 彩恵子^{2・5}、才田 晴奈^{2・5}、宇留野 圭^{2・5}、磯部 昌憲^{1・2}、稲葉 啓通^{1・2}、村井 俊哉^{1・2}、上月 遥^{1・2}

1. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科、
2. 京都大学医学部附属病院 児童思春期こころの相談センター、
3. 京都市児童福祉センター診療所 児童精神科、
4. 京都大学医学部附属病院 臨床心理室、
5. 京都大学医学部附属病院 小児科

03-3 子どもの逸脱行動の背景に想定される精神病理：若年パーティ症候群（仮称）について（2：行為障害（ICD-10）概念との比較

吉岡 真吾

愛知県精神医療センター

03-4 児童相談所の過剰運用と制度的課題：親子分離・一時保護の現状と子どもの人権尊重・福祉向上を目指した制度改革の必要性

生月 弓子^{1・2}

1. 浜田病院 お茶の水、
2. 医療法人 燈明会

15:10-16:10

一般口演6

外来・入院統計1

司会：西野 良（京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構）

06-1 埼玉医科大学病院における児童青年期の自殺未遂による急性中毒患者の臨床的特徴

○原田 舟、桑原 斉

1. 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科

06-2 AYA（Adolescent and Young Adult）世代病棟における多職種の役割 開設後の取り組みと課題の検討

○松本 和美、山本 佳将、吉見 謙一、佐野 樹、久納 一輝、森川 将行

1. 三重県立こころの医療センター

06-3 和歌山県立医科大学附属病院の子どものこころ外来開設後の患者の動向

○魚谷 和史¹、石山 雄大¹、和田 由佳¹、藤林 舞¹、平田 真之将^{1・2}、紀本 創兵¹

1. 和歌山県立医科大学附属病院 神経精神科、
2. 和歌山県立こころの医療センター

06-4 児童精神科における診察時間と長時間化の要因

○河邊 憲太郎^{1・2}、見山 朋恵²、越智 麻里奈³、堀内 史枝^{1・3}

1. 愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座、
2. 一般財団法人創精会 松山記念病院、
3. 医療法人佑心會 堀江病院

16:20-17:20

一般口演 9

外来・入院統計 2

司会：山根 謙一（九州大学病院 子どものこころの診療部）

- 09-1 横浜市地域療育センターから継続して横浜市総合リハビリテーションセンターを利用した発達障害児 64 症例の中学高校期の利用状況調査～その 2～相談内容から見える発達障害児の中学高校期の課題と求められる支援**

○須田 恭平¹、湯田 京子²、塙 由美子²、大園 啓子^{1・2}

1. 横浜市北部地域療育センター、2. 横浜市総合リハビリテーションセンター

- 09-2 横浜市地域療育センターから継続して横浜市総合リハビリテーションセンターを利用した発達障害児 64 症例の中学高校期の利用状況調査～その 1～発達障害児の中学高校期の実態調査**

○湯田 京子¹、須田 恭平²、塙 由美子¹、大園 啓子^{1・2}

1. 横浜市総合リハビリテーションセンター、2. 横浜市北部地域療育センター

- 09-3 平谷こども発達クリニックにおける開設 24 年間の神経発達症 5000 名のデータ解析 第 1 報：自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・読字障害（発達性ディスレクシア）の診断の変遷**

○平谷 美智夫¹、滝口 慎一郎¹、平谷 清吾^{1・2}、川谷 正男³、小坂 拓也^{1・4}、前田 夢吉^{1・4}、

五十嵐 淳平⁵、石飛 信⁶、荻野 和雄⁷、熊崎 博一⁸

1. 平谷こども発達クリニック、2. 松原病院精神科、3. 福井県こども療育センター、
4. 福井大学医学部小児科、5. 金沢大学小児科、6. 仁恵病院、7. 福井厚生病院、
8. 長崎大学医学部精神神経科学

- 09-4 平谷こども発達クリニックにおける開設 24 年間の神経発達症 5000 名のデータ解析 第 2 報：神経発達症同胞例 915 名（430 家系）の検討**

○滝口 慎一郎¹、平谷 清吾^{1・2}、平谷 美智夫¹、川谷 正男³、小坂 拓也^{1・4}、前田 夢吉^{1・4}、五十嵐 淳平⁵、
石飛 信⁶、荻野 和雄⁷、熊崎 博一⁸、

1. 平谷こども発達クリニック、2. 松原病院精神科、3. 福井県こども療育センター小児科、
4. 福井大学医学部小児科、5. 金沢大学小児科、6. 仁恵病院、7. 福井厚生病院、
8. 長崎大学医学部精神神経科学

- 09-5 平谷こども発達クリニックにおける開設 24 年間の神経発達症 5000 名のデータ解析 第 3 報：読字障害（発達性ディスレクシア）の診断例の増加と注意欠如多動症のディスレクシアへの高い併存率**

○平谷 清吾^{1・2}、滝口 慎一郎²、平谷 美智夫²、川谷 正男³、小坂 拓也^{2・4}、前田 夢吉^{2・4}、

五十嵐 淳平⁵、石飛 信⁶、荻野 和雄⁷、熊崎 博一⁸

1. 松原病院精神科、2. 平谷こども発達クリニック、3. 福井県こども療育センター、
4. 福井大学医学部小児科、5. 金沢大学小児科、6. 仁恵病院、7. 福井厚生病院、
8. 長崎大学医学部精神神経科学

17:30-19:00

症例検討 2

司会：関 正樹（医療法人仁誠会 大湫病院）

スーパーバイザー：田中 究（兵庫県立 ひょうご こころの医療センター）

- C2-1 易怒性の改善後に抑うつをきたし不登校となった自閉スペクトラム症の一例**

立花 春子¹、辻井 農亜²

1. 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、
2. 富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座

9:00-10:30

シンポジウム 9

東日本大震災とその後の自然災害の教訓を踏まえて今後起こりうる災害に備える

司会：板垣 俊太郎（（公）福島県立医科大学 医学部 神経精神医学講座 准教授）

司会：林 みづ穂（仙台市精神保健福祉総合センター 所長）

S9-1 東日本大震災から 14 年を迎えた福島の子どもたちー県民健康調査からわかったことー

板垣 俊太郎（（公）福島県立医科大学 医学部 神経精神医学講座 准教授）

S9-2 「みちのくこどもコホート」研究からのメッセージー起こりうる災害への備えー

八木 淳子（岩手医科大学 医学部 神経精神科学講座 教授）

S9-3 大規模自然災害における学校支援を考える

榊屋 二郎（東京医科大学 精神医学分野 主任教授）

S9-4 能登半島地震の現場からの報告

菊知 充（金沢大学 医薬保健研究域 医学系 医薬保健研究域 医学系 精神行動科学 教授）

10:40-12:10

シンポジウム 12

子ども・若者の自殺を現場で予防する

司会：辻井 農重（富山大学附属病院 こどものこころと発達診療学講座 客員教授）

司会：山田 敦朗（名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 教授）

S12-1 学校現場へ向けた児童精神科医の役割

船渡川 智之（東邦大学医学部 精神神経医学講座 講師）

S12-2 子ども・若者の自殺未遂者支援に向けた救急医療機関での取り組み

三上 克央（東海大学医学部 総合診療学系精神科学）

S12-3 子ども・若者の自殺を現場で予防する 児童相談所の現場からー自殺に対する課題と対応ー

上野 千穂（京都市児童福祉センター診療所 診療療育課 診療所長）

S12-4 名古屋市子ども・若者の自殺危機対応チーム 支援者支援としての活動報告と課題、効果的な支援方法の検討

白石 みどり（株式会社スノーム 名古屋市子ども・若者の自殺危機対応チーム 統括管理者）

12:20-13:20

共催セミナー 1（塩野義製薬株式会社）

注意欠如多動症治療においてプログラム医療機器はどう位置づけられうるのか

ーエビデンスからみた可能性と課題

司会：小坂 浩隆（福井大学医学部 精神医学）

演者：岡田 俊（奈良県立医科大学 精神医学講座）

13:30-14:30

会長講演

井の中の蛙は誰だ！～児童青年精神医学の世界～

司会：岡田 俊（奈良県立医科大学 精神医学講座）

演者：小坂 浩隆（福井大学医学部 精神医学）

14:40-15:40

特別講演 2

青年期の病的体験に関する臨床的研究

司会：小坂 浩隆（福井大学医学部 精神医学）

演者：杉山 登志郎（福井大学子どものこころの発達研究センター）

15:50-17:20

シンポジウム 17

摂食障害の入院治療 診療科でどう違う？

～小児科、児童精神科、精神科、心療内科、それぞれの強みを活かす～

司会：宮脇 大（大阪市立総合医療センター 児童青年精神科 部長）

S17-1 摂食障害の入院治療 ～児童精神科の強みを活かす～

宮脇 大（大阪市立総合医療センター 児童青年精神科 部長）

S17-2 大学病院心療内科における摂食障害の入院治療の例

吉内 一浩（東京大学医学部附属病院 心療内科 病院教授）

S17-3 摂食障害の入院治療 ～小児科の強みを活かす～

井上 建（獨協医科大学 こどものこころ診療センター）

S17-4 摂食障害の入院治療～精神科の強みを活かす～

原田 朋子（大阪公立大学大学院 医学部・神経精神医学 講師）

2日目 11月14日（金）B会場 AOSSA 8F リハーサル室

9:00-10:30

子どもの人権と法に関する委員会セミナー

共同親権と子どもの人権

司会：関 正樹（大湫病院）

司会：田中 容子（府中刑務所）

CS3-1 法的な問題

安保 千秋（都大路法律事務所）

CS3-2 共同親権、医療保護入院の手続きの検証と議論の機会に、児童精神科救急の体制整備を進め、困難事例の児童が生存し治療支援をうけられる課題の整理と共有

幸田 有史（京都府立洛南病院）

CS3-3 児童相談所職員の立場から共同親権と多職種連携の必要性についての考察

奥谷 朋子（福井県児童・女性相談所 家庭支援課 課長 社会福祉士 公認心理師）

10:30-12:00

精神鑑定関連の症例検討

司会：安藤 久美子

CS3-1 家族成員を殺害した少年の精神状態鑑定例

栗林 英彦（岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター）

14:40-15:40

一般口演 16

摂食症 1

司会：牛島 洋景（うしじまこころの診療所）

**016-1 児童・思春期の神経性やせ症を対象とした日本版マルチファミリーセラピーの実施可能性の検討
～中間報告～**

○公家 里依^{1・2}、中野 未来³、児島 佳代子¹、倉橋 佳那¹、白石 健^{2・4}、牧田 みずほ²、
篠山 大明^{2・4}、本田 秀夫^{1・2}

1. 信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、
2. 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室、
3. 信州大学医学部附属病院リハビリテーション部、4. 信州大学医学部精神医学教室

016-2 なんで死にそうなほどやせすぎてると分らないの？ 進化精神医学の視点で解き明かす神経性やせ症の摂食制限型

○荒田 智史

こどもメンタルクリニック芝

016-3 解離性障害と重複心因性疾患を伴う、心的外傷体験の暴露から ARFID に至る患者への心理治療

○堀内 愛佳、森本 武志

福井大学医学部附属病院 子どものこころ診療部

016-4 神経性やせ症の体重増加における停滞域の定量的解析

○簡野 宗明、高橋 奈那、佐藤 文佳、水野 祐之介、山口 祐子、吉田 夕佳、藤橋 桃子

山形大学医学部 精神科

016-5 一卵性双生姉妹の妹のみ発症した神経性やせ症を通した病態の考察。

○塩津 大地、島田 尚子、佐々木 なつき、中村 雅之

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 精神機能病学分野

15:50-16:50

一般口演 19

摂食症 2

司会：森野 百合子（成増厚生病院）

O19-1 精神科閉鎖病棟における児童思春期摂食症の多職種入院治療 1－成人例との治療構造の比較－

○辻元 健太郎¹、米田 拓矢²、長尾 海里³、服部 律子⁴、柴田 直人⁵、上月 遥¹、磯部 昌憲¹

1. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科、
2. 京都大学医学部附属病院 精神科相談室、
3. 医療法人 稲門会 いわくら病院、
4. 愛知医科大学病院 精神神経科、
5. 京都大学医学部附属病院 デイケア診療部

O19-2 精神科閉鎖病棟における児童思春期摂食症の多職種入院治療 2

－成人例における PSW の役割との比較－

○米田 拓矢⁴、長尾 海里²、服部 律子³、柴田 直人⁵、辻元 健太郎¹、上月 遥¹、磯部 昌憲¹

1. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科、
2. 医療法人 稲門会 いわくら病院、
3. 愛知医科大学病院 精神神経科、
4. 京都大学医学部附属病院 精神科相談室、
5. 京都大学医学部附属病院 デイケア診療部

O19-3 精神科閉鎖病棟における児童思春期摂食症の多職種入院治療 3

－心理士介入における成人例との比較－

○長尾 海里¹、辻元 健太郎²、米田 拓矢²、服部 律子³、柴田 直人²、上月 遥²、磯部 昌憲²

1. 稲門会いわくら病院、
2. 京都大学医学部附属病院、
3. 愛知医科大学病院

O19-4 精神科閉鎖病棟における児童思春期摂食症の多職種入院治療 4－成人例との作業療法の比較－

○服部 律子¹、辻元 健太郎⁵、米田 拓矢⁴、長尾 海里⁶、柴田 直人³、上月 遥²、磯部 昌憲²

1. 愛知医科大学病院 精神神経科、
2. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科、
3. 京都大学医学部附属病院 デイケア診療部、
4. 京都大学医学部附属病院 精神科相談室、
5. 京都大学医学部附属病院、
6. 医療法人 稲門会 いわくら病院

O19-5 精神科閉鎖病棟における児童思春期摂食症の多職種入院治療 5

－治療構造に沿った OT 介入の実際と多職種介入の重要性－

○柴田 直人¹、辻元 健太郎²、米田 拓矢³、長尾 海里⁴、服部 律子⁵、上月 遥⁶、磯部 昌憲⁷

1. 京都大学医学部附属病院 デイケア診療部、
2. 京都大学医学部附属病院、
3. 京都大学医学部附属病院 精神科相談室、
4. 医療法人 稲門会 いわくら病院、
5. 愛知医科大学病院 精神神経科、
6. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科、
7. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科

17:00-18:00

一般口演 22

統合失調症圏

司会：石飛 信（仁恵病院 精神科）

022-1 超早期発症治療抵抗性統合失調症にクロザピンが奏功した一症例

ークロザピンの適切な導入時期の検討ー

○森 貴俊¹、川原 紘子^{2・3}、野畑 宏之¹、畑田 けい子²

1. 心療内科新クリニック、2. 厚生会 道ノ尾病院、3. 長崎大学病院 精神神経科学教室

022-2 急性精神病症状を契機に抗 N-methyl-D-aspartate (NMDA) 受容体脳炎と診断された 10 代女児の 1 例

○若林 伊織、嶋岡 修平、中島 公博

1. 医療法人社団 五稜会病院

022-3 統合失調症の症状を呈しつつ、自傷及び市販薬の乱用を繰り返し、約 2 年間入退院を繰り返した後、幻覚妄想状態を顕在発症した青年期の一例

○白木原 和薫、木村 一優

医療法人社団新新会 多摩あおば病院

022-4 妄想性人物誤認症候群を呈した 15 歳男児の 1 例

～児童思春期症例における精神病理及び力動的考察を踏まえて～

○石田 寛佳、長沢 崇

東京都立小児総合医療センター

2日目 11月14日（金）C会場 AOSSA 7F 706・707

9:00-10:00

一般口演 10

ASD 3

司会：鬼頭 有代（医療法人いちえ 有希クリニック）

010-1 過集中を活かし、自己肯定感を向上させた自閉スペクトラム症の一例

○山形 祥礼¹、辻井 農重²、佐久田 静¹、橋本 衛¹

1. 近畿大学病院精神神経科、2. 富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座

010-2 自閉スペクトラム症者の発達特性を共有するペア・ワークがその友人関係・自己理解に与える影響に関する発達臨床心理学的考察 奈良県高機能自閉症児・者の会アスカでのグループ余暇支援活動 20 年の歩み①

○櫻井 秀雄¹、出口 紗英子²

1. 関西福祉科学大学、2. 和歌山県立こころの医療センター

010-3 病棟を逃げだした自閉スペクトラム症男児が「男」になるまでの入院経過

○河野 悠介、宇佐美 政英、箱島 有輝、水本 有紀、稲崎 久美

1. 国立国府台医療センター 児童精神科

010-4 家庭訪問型セーフケアと外来型セーフケアによる育児スキル向上：2 症例の検討を通して

近藤 強

きょうまちなかこころクリニック 精神科、心療内科、児童精神科

010-5 自閉スペクトラム症の子どもと親を対象とした Parent-Child Interaction Therapy の有用性の検討ー『洞察力』の変化に着目してー

○杉田 理緒¹、細金 奈奈^{2・3}、木原 望美^{1・3・4}、山口 貴史^{1・3・4}、齋藤 真樹子^{1・3・4}、酒井 真優^{1・4}、齊藤 万比古^{1・5}、小平 雅基^{1・2・3・4}

1. 愛育産後ケア子育てケアステーション 子どものこころ相談室、

2. 総合母子保健センター 愛育クリニック小児精神保健科、

3. 愛育研究所 児童福祉・精神保健研究部、

4. 総合母子保健センター 愛育クリニック医療福祉室、5. 愛育研究所

10:10-11:10

一般口演 12

ASD 4

司会：伊藤 一之（静岡県立こども病院）

012-1 母の逝去前に Advance Care Planning を行った自閉スペクトラム症の姉妹例

○矢野 瑞季¹、森 尚子²、長沢 崇¹

1. 東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科、
2. 東京都立小児総合医療センター血液・腫瘍科、緩和ケア科

012-2 自閉症スペクトラム症、注意欠如多動症を合併し、当初は入院加療を必要とした児の 10 年の経過について

○山崎 史暁¹、佐々木 剛¹、廣瀬 祐紀²、御園 覚夫²、永野 顕信²

1. 千葉大学医学部 こどものこころ診療部、2. 千葉大学医学部附属病院 精神神経科

012-3 自閉スペクトラム症児の聴覚過敏に関連する不快閾値と行動特性の検討

○加藤 陽子^{1,2}、中西 真理子¹、藤野 陽生^{1,3}、橘 雅弥^{1,4}、毛利 育子^{1,4}、下野 九理子^{1,4}

1. 大阪大学大学院 連合小児発達学研究科、2. びわこリハビリテーション専門職大学、
3. 大阪大学大学院 人間科学研究科、4. 大阪大学大学院 医学系研究科

012-4 なんで折れ線型になるの？－共感性とシステム化のゼロサム説から解き明かす自閉スペクトラム症

荒田 智史

こどもメンタルクリニック芝

012-5 逆境的生育歴を背景に行動化を繰り返した自閉スペクトラム症女児の入院治療

○馬 敏宰、山本 啓太、橋本 彩加、板垣 琴瑛、箱島 有輝、稲崎 久美、水本 有紀、宇佐美 政英

1. 国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター

11:20-12:20

一般口演 14

学校精神保健 1

司会：長沢 崇（東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科）

014-1 名古屋市中学校スクールカウンセラー常勤化後の生徒の相談率、認知度、満足度の推移：反復横断調査の結果

○稲葉 啓通¹、坂田 昌嗣²、坪井 裕子³、山田 敦朗²

1. 京都大学医学部附属病院精神科神経科、
2. 名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座、
3. 名古屋市立大学大学院人間文化研究科

014-2 高校生におけるスマホ等使用環境と健康リスク～視力・生活適応との関連～

○村山 達哉¹、黒田 美保²

1. 田園調布学園高等部、2. 田園調布学園大学

014-3 普通級と支援級の選択により情動発達に差異を認めた一卵性双生児

○中村 晃士^{1,2}、湯澤 美菜¹

1. 湯澤医院、2. 押上こころのクリニック

014-4 中学校移行における神経発達症特性と社会的環境因の影響：潜在遷移分析を用いた縦断的解析

○森 裕幸^{1,2}、高橋 芳雄^{2,3}、足立 匡基^{2,4}、長田 真人⁵、足立 みな美⁵、中村 和彦^{2,5}

1. 埼玉学園大学、2. 弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センター、
3. 東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター、4. 明治学院大学 心理学部、
5. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座

014-5 中学生の抑うつや自傷などの COVID-19 前後での変化～A 中学校での健康調査結果から

○清田 晃生¹、小笹 祥子²

1. 大分療育センター、2. 法政大学イノベーション・マネジメント研究科

14:40-15:40

一般口演 17

不登校 1

司会：補永 栄子（大阪大学）

017-1 長期に不登校であった中学3年生男児の任意入院の治療経過

○酒匂 雄貴、山本 啓太、橋本 彩加、板垣 琴瑛、箱島 有輝、稲崎 久美、水本 有紀、宇佐美 政英
国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター

017-2 不登校児童に対する訪問看護における多職種連携の取り組み

○沖田 美雪、澁谷 佐季、小池 友香、永井 司、北村 舞香、佐々木 瞭、渡部 弥生、下里 侑子、
那須野 清夏、石川 愛実、立野 慶

医療法人社団ユニメディコ 藤が丘こころのクリニック

017-3 不登校児童への新たな包括的アウトリーチとして一訪問診療を中心とした多職種連携一

○北村 舞香、沖田 美雪、永井 司、後藤 詩織、小池 友香、澁谷 佐季、佐々木 瞭、渡部 弥生、
下里 侑子、那須野 清夏、石川 愛実、立野 慶

医療法人社団ユニメディコ 藤が丘こころのクリニック

017-4 不登校児童における発達特性および感覚特性と再登校の関連

一感覚プロファイル短縮版と自閉症スペクトラム指数を用いた検討

○永井 司、後藤 詩織、小池 友香、澁谷 佐季、渡部 弥生、那須野 清夏、石川 愛実、沖田 美雪、
佐々木 瞭、北村 舞香、下里 侑子、立野 慶

医療法人社団ユニメディコ 藤が丘こころのクリニック

017-5 当院の不登校児童における精神保健福祉士の活動報告

○小池 友香、立野 慶、後藤 詩織、佐々木 瞭

医療法人社団ユニメディコ 藤が丘こころのクリニック

15:50-16:50

一般口演 20

不登校 2

司会：松崎 秀夫（福井大学子どものこころの発達研究センター）

020-1 当院における不登校児童に対する在宅訪問リハビリテーションについて

○後藤 詩織、小池 友香、永井 司、澁谷 佐季、佐々木 瞭、渡部 弥生、下里 侑子、沖田 美雪、
那須野 清夏、石川 愛実、北村 舞香、立野 慶

医療法人社団ユニメディコ

020-2 ゲーム依存傾向のある不登校児とその家族へのオープンダイアログの手法に基づいた診療の試み

○永野 志歩^{1,2}、山路 由夏¹、中村 朔也¹、大原 伸騎¹

1. 高知医療センター、2. 高知大学保健管理センター医学部分室

020-3 通院を拒否する不登校事例の長期の家族支援について

○稲垣 卓司¹、和氣 玲²、山下 智子³

1. 島根大学医学部看護学科、2. 島根大学医学部出雲保健管理センター、
3. 島根大学医学部精神科神経科

020-4 不登校はなぜ日本だけですますます増えてるの？文化結合症候群としてとらえ直すと見えてくる根本的な原因とは？一成人した子どもへの扶養義務という呪縛

○荒田 智史¹、杉野 珠理²

1. こどもメンタルクリニック芝、2. 武蔵野音楽大学

020-5 不登校児童に対する訪問診療におけるメディカルソーシャルワーカーの活動報告

○石川 愛実、澁谷 佐季、後藤 詩織、渡部 弥生、小池 友香、佐々木 瞭、沖田 美雪、永井 司、
那須野 清夏、下里 侑子、北村 舞香、立野 慶

医療法人社団ユニメディコ

17:00-18:00

一般口演 23

心理社会的援助・家族支援 1

司会：吉田 弘和（宮城県立精神医療センター）

O23-1 精神疾患を抱える思春期患者におけるソーシャル VR 対話の心理的効果：NHK『プロジェクトエirian』を用いた予備的検討

○藤田 純一、高山 みづほ

横浜市立大学附属病院 児童精神科

O23-2 神経発達症の外来診療における描画に対する養育者の反応

○武田 俊信¹、廣田 愛海²、松原 愛³、平野 真理⁴

1. 龍谷大学心理学部、2. お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科、
3. 龍谷大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻、4. お茶の水女子大学基幹研究院

O23-3 『きょうだい児』の視点を取り入れた治療支援の一例

○神谷 俊介¹、中島 康輔²、吉村 有希¹、鈴木 龍太郎²、小野 剛^{1,3}、稲田 健¹

1. 北里大学医学部精神科学、2. 北里大学医学部精神科学 地域児童精神科医療学、
3. 東日本少年矯正医療・教育センター

O23-4 知的境界域の児童の母親への支援導入に向けた心理的支援の実践

ー学校・福祉との連携による支援展開の一事例ー

○服部 智花^{1,2}、宋 大光¹

1. 宋こどものこころ醫院、2. NPO 法人ぴーす

O23-5 小児期より統合失調症の母に対するヤングケアラーとなっていた自閉スペクトラム症の若年女性に対する心理社会的支援の経験

○桑原 明子、飯田 直子、池上 明希

京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学

2日目 11月14日（金）D会場 AOSSA 6F 福井市地域交流プラザ 研修室 601

9:00- 9:50

教育講演 4

算数の不全を伴う限局性学習症の評価

司会：荻野 和雄（医療法人 厚生会 福井厚生病院 ストレスケア科）

演者：藤岡 徹（福井大学 学術研究院教育・人文社会系部門）

演者：前澤 里枝子（嶺北特別支援学校 小学部）

10:00-10:50

教育講演 5

摂食症を伴う青年のアセスメントと治療「過食は治る」

司会：森野 百合子（成増厚生病院 なります子どものこころケアセンター）

演者：永田 利彦（壺燈会 なんば・ながたメンタルクリニック）

11:00-11:50

教育講演 6

摂食症治療のすすめーどう限られた時間で「生きづらさ」にアプローチするのか

司会：斉藤 まなぶ（弘前大学 大学院保健学研究科心理支援科学領域）

演者：宇佐美 政英（国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 児童精神科）

12:20-13:20

共催セミナー 2 (ノーベルファーマ株式会社)

若者の未来を守るために、「朝起きられない」を治療する～睡眠障害・神経発達症の観点から～

司会：堀内 史枝 (愛媛大学大学院 医学系研究科 児童精神医学講座)

演者：志村 哲祥 (東京医科大学睡眠学講座 財団法人神経研究所 国立精神・神経医療研究センター)

13:30-14:20

教育講演 7

児童福祉法改正、こども基本法によって、現場はどう変わったのか？

司会：柳生 一自 (北海道医療大学 心理科学部 臨床心理学科)

演者：薬師寺 真 (岡山県倉敷児童相談所)

14:40-16:10

シンポジウム 15

児童・思春期のメンタルヘルスと社会的処方：レジストリデータ利活用の可能性

司会：辻井 農重 (富山大学附属病院 こどものこころと発達診療学講座 客員教授)

司会：宇佐美 政英 (国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 児童精神科)

S15-1 レジストリを活用した児童精神科診療の質的評価と効率的かつ効果的な支援や治療法の開発

佐々木 祥乃 (東京科学大学 精神行動医科学分野)

S15-2 小児期逆境体験と心的外傷後ストレス症診断の関連：児童思春期レジストリデータに基づく臨床的特徴の検討

柳 百合子 (国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター)

S15-3 ODD 併存 ADHD 児における処方傾向と包括的支援の検討

木原 弘晶 (金沢医科大学病院 精神神経科学 学内講師)

S15-4 児童思春期レジストリデータに基づく死別を経験した症例の診断と精神症状の検討

猪俣 珠恵 (国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター 研究開発部)

16:20-17:50

生涯教育に関する委員会セミナー

児童精神科医への道のりー児童精神科研修の実際ー

司会：岡崎 康輔 (一般財団法人信貴山病院 ハートランドしぎさん こどものこころ診療センター)

CS5-1 都道府県別子どものこころ専門医の分布と自殺・虐待発生率との関連

佐々木 祥乃 (東京科学大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野)

CS5-2 学生へのエクスポージャーから始まる児童精神科医の育成ー奈良医大での実践を通してー

水井 亮 (奈良県立医科大学精神医学講座)

CS5-3 オンラインでつながる！福井モデルの教育体制～児童精神科医のキャリアパスを支える仕組み～

眞田 陸 (福井大学医学系部門病態制御医学講座精神医学)

CS5-4 児童精神科病棟で児童精神科臨床を学ぶということ

尾崎 仁 (兵庫県立ひょうごこころの医療センター)

CS5-5 精神科・児童精神科・小児科で協力する名古屋大学の研修プログラム

加藤 秀一 (名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科)

9:00-10:30

シンポジウム 10

児童精神科病棟運用に関する現状と課題～制約ある公的病院でのとりくみ～

司会：水本 有紀（国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 児童精神科 医師）

司会：堀内 史枝（愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座 教授）

S10-1 児童思春期病棟開設後1年の現状と課題

織田 侑南（愛媛県立子ども療育センター 小児精神科 医長）

S10-2 大学病院の児童精神科専用病棟の現状と課題

山家 健仁（岩手医科大学 医学部神経精神科学講座 講師）

S10-3 国府台医療センター児童精神科の入院治療について

箱島 有輝（国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 児童精神科 医師）

S10-4 三重県の子ども臨床を支える児童精神科病棟であるために

ーあすなろ学園から子ども心身発達医療センターへー

中西 大介（三重県立子ども心身発達医療センター 児童精神科 センター長）

指定発言：岩垂喜貴（駒木野病院 精神科 児童精神科部長）

10:40-12:10

シンポジウム 13

医療・教育連携：有機的な連携のあり方とは

司会：佐々木 剛（千葉大学医学部附属病院 こどものこころ診療部・精神神経科 准教授）

司会：堀内 史枝（愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座 教授）

S13-1 医療学校連携の現状と課題ー有機的な連携の手がかりを考えるー

上月 遥（京都大学医学部附属病院 精神科神経科 助教）

S13-2 神経発達症児に関する医療・教育連携の影響ー保護者の視点から

井上 彩織（愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座）

S13-3 医療・教育連携：有機的な連携のあり方とはー地域のクリニックでの取り組み

梶梅 あい子（あおさきこども心療所）

S13-4 医療・教育機関：有機的な連携のあり方とは

ー深刻な暴言・暴行を呈する女児Aに対する認知行動療法の応用ー

松浦 直己（三重大学 教育学部 教授）

指定発言：岡田 俊（奈良県立医科大学 精神医学講座 教授）

14:40-16:10

倫理委員会セミナー

カルテ開示についての倫理的課題

座長：森本 芳郎

座長：佐々木 宏太

CS4-1 神奈川県立こども医療センターにおける診療録開示の現状

庄 紀子（神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科）

CS4-2 診療録開示に悩むとき

中土井 芳弘（独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター児童精神科）

指定討論：安保 千秋

16:20-17:50

シンポジウム 18

社会的養護と児童精神科医療の連携について

司会：早川 洋（こどもの心のケアハウス 嵐山学園）

司会：山根謙一（九州大学病院 子どものこころの診療部）

S18-1 児童心理治療施設のインケアとアフターケア

早川 洋（こどもの心のケアハウス 嵐山学園）

S18-2 一時保護委託における児童相談所と精神科医療の連携実態と課題

陶山 寧子（横浜市こども青少年局こども福祉保健部 横浜市中央児童相談所 医務担当部長）

S18-3 社会的養護と児童精神科医療の連携 医療の立場から

香月 大輔（九州大学病院 子どものこころの診療部）

指定発言：斎藤 万比古（恩賜財団母子愛育会 愛育研究所）

2日目 11月14日（金）F会場 AOSSA 6F 福井市地域交流プラザ 研修室 607

10:10-11:10

ポスター7

心理社会的援助・家族支援2

司会：水野 有香（福井大学医学部精神医学）

P7-1 発達障害児の親を対象としたペアレントトレーニングの効果

ー自閉スペクトラム症児と注意欠如多動症児の親の比較ー

○宮地 香澄、関 正樹

医療法人仁誠会 大湫病院

P7-2 家族イメージ法（FIT）の定量的評価と青年期のメンタルヘルスリスクの関連

○福榮 太郎¹、柴田 康順²、佐藤 篤司³

1. 横浜国立大学、2. 大正大学、3. 国際医療福祉大学

P7-3 親子の視点のズレは子どものメンタルヘルスにどう影響するか：養育態度の主観的評価と評価差分に基づく抑うつとの関連

○奥田 奈菜¹、蒲 みのり¹、打和 望実¹、足立 匡基^{2・3・4}

1. 明治学院大学大学院心理学研究科心理学専攻、2. 明治学院大学心理学部、

3. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、4. 公益社団法人子どもの発達科学研究所

P7-4 援助志向性とセルフ・コンパッションは愛着の不安定性をどう緩衝するか：育児否定的感情をめぐる父母別の媒介モデル分析

○打和 望実²、蒲 みのり²、奥田 奈菜²、足立 匡基^{1・3・4}

1. 明治学院大学心理学部心理学科、2. 明治学院大学大学院心理学研究科、

3. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、4. 公益社団法人子どもの発達科学研究所

P7-5 Wechsler 検査とスクリーニング検査の関連の検討

○村嶋 隼人¹、上月 恵里¹、岩橋 多加寿²、奥野 正景¹

1. 医療法人サザカム会三国丘こころのクリニック／三国丘病院、

2. 医療法人サザカム会三国丘こころのクリニック

10:10-11:10

ポスター 8

外来・入院統計 4

司会：原田 剛志（パークサイドこころの発達クリニック）

P8-1 奈良県総合医療センター精神科における児童思春期の入院診療の実態調査

○神川 浩平^{1・2}、太田 豊作³、疇地 崇広^{1・2}、後藤 晴栄^{1・2}、飯田 順三⁴、岡田 俊²

1. 奈良県総合医療センター 精神科、2. 奈良県立医科大学 精神医学講座、
3. 奈良県立医科大学 人間発達学、4. 万葉クリニック 子どものこころセンター 絆

P8-2 当院における外国にルーツをもつ児童青年期患者の動向

○徳丸 淑江、市川 千智、中島 美千世

Koharu terrace Clinic

P8-3 静岡県立こども病院こころの診療科外来・リエゾン診療における過量服薬に関する分析

○増田 直哉、大石 聡、伊藤 一之、渥美 委規、八木 敦子、氏家 紘平

静岡県立こども病院

P8-4 東京都立豊島病院精神科救急において緊急措置診察となった広汎性発達障害患者の傾向と変遷：2017-2024 年度の 8 年間の解析

○菅原 直也、片岡 宗子

東京都立豊島病院

P8-5 初診後 1 年以内に診断が変更された児童精神科患者の臨床的特徴について－症例対照研究－

○伊藤 佑美¹、佐々木 祥乃¹、宇佐美 政英²、箱島 有輝²、稲崎 久美²、水本 有紀²、辻井 農亜³、三上 克央⁴

1. 東京科学大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野、
2. 国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター 児童精神科、
3. 富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座、
4. 東海大学医学部医学科総合診療学系精神科学

11:20-12:20

ポスター 11

心理社会的援助・家族支援 3

司会：滝口 慎一郎（平谷こども発達クリニック）

P11-1 2歳以下を中心とした幼児の育児に困難を覚える 保護者に対するペアレント・プログラムの効果の検討ー保護者、介入実施者双方による評価ー

○野原 茉紘¹、蔦森 英史²

1. 北海道釧路鶴野支援学校、2. 北海道教育大学旭川校

P11-2 当院における PCIT（親子相互交流療法）の導入と実践

○白井 澄、中土井 芳弘、岸本 久美子

四国こどもとおとなの医療センター

P11-3 精神科病院における児童思春期外来作業療法の実践と今後の課題

○ダウナー 茜¹、久世 由姫¹、見山 朋恵¹、河邊 憲太郎^{1・2}

1. 一般財団法人 創精会 松山記念病院、2. 愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学

P11-4 神経発達症児の保護者が集団心理教育に求めるテーマ

～「発達障害の家族講座」のアンケートから～

○児島 佳代子¹、久保木 智洸^{2・3}、倉橋 佳那¹、牧田 みずほ⁴、白石 健^{4・5}、公家 里依^{1・4}、篠山 大明^{4・5}、本田 秀夫^{1・4}

1. 信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部、2. 信州大学大学院総合医理工学部研究科、

3. 山梨県立大学 人間福祉学部福祉コミュニティ学科、

4. 信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室、5. 信州大学医学部 精神医学教室

P11-5 自閉スペクトラム症および注意欠如・多動症の子どもを対象としたアンガーマネジメントプログラムの探索的研究ー怒りの感情対処に重きを置いたプログラムの効果検証ー

○倉橋 佳那¹、児島 佳代子¹、中野 未来²、牧田 みずほ³、白石 健^{3・4}、公家 里依^{1・3}、篠山 大明^{3・4}、本田 秀夫^{1・3}

1. 信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、

2. 信州大学医学部附属病院リハビリテーション部、

3. 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室、4. 信州大学医学部精神医学教室

11:20-12:20

ポスター 12

ASD 5

司会：猪股 誠司（湘南福祉センター診療所）

P12-1 思春期の自閉スペクトラム症患者を対象とした集団音楽療法の有効性の検討

○持田 訓子^{1・4}、星野 諒太²、藤田 純一³

1. 横浜市立大学、2. 横浜市立大学附属病院精神科、3. 横浜市立大学附属病院児童精神科、
4. 横浜創英大学

P12-2 いじめを受け心的外傷後ストレス症を発症した自閉スペクトラム症男児：被害体験を語りうるようになるまでの道程

小山 恵梨佳

岐阜県立希望が丘子ども医療福祉センター

P12-3 「河島教材」を用いた自閉スペクトラム症児への家庭療育：その支援の試み

○市川 千智^{1・2}、徳丸 淑江^{1・2}、夫馬 裕太¹、柳澤 尚実¹、栗林 英彦¹、高岡 健¹、中島 美千世²

1. 岐阜県立希望が丘子ども医療福祉センター、2. Koharu terrace Clinic

P12-4 自閉スペクトラム症者のカモフラージュ：当事者の認識するメリットとデメリット

砂川 芽吹

お茶の水女子大学 基幹研究院人間科学系

P12-5 中学入学後の不適応により、微小妄想、自己不潔恐怖を伴って、物の擬人化が顕在化した自閉スペクトラム症の特性を有する14歳女児の1例

○田村 和世、吉川 陽子、中井 大貴、魚住 広之、橋本 亮、山本 直毅、飯塚 理、後藤 彩子、松島 章晃、横田 伸吾、黒田 健治

阪南病院

14:40-15:40

ポスター 15

基礎研究・脳画像研究など

司会：安藤 俊太郎（よつばこころのクリニック要町駅前精神神経科）

P15-1 ビフィズス菌による幼少期のマウスの攻撃行動への影響

花輪 球太、三上 克央、渡邊 己弦、木本 啓太郎、高世 駿也、赤間 史明、山本 賢司
東海大学医学部付属病院

P15-2 大学生の自己理解と発達障がい特性に関する探索的研究

辻 由依

札幌学院大学

P15-3 青年期における社交不安の評価尺度：Social Phobia Scale (SPS) とその短縮版 (SPS-6) の検証

○加藤 充訓¹、井出 草平^{2・3}、眞田 陸³、小野沢 祐哉¹、鈴木 太¹

1. 社会医療法人杏嶺会 上林記念病院、2. 多摩大学情報社会学研究所、
3. 福井大学医学部精神医学

P15-4 前頭葉機能における成育環境による影響の検討

○滝口 慎一郎¹、水島 栄²、齋藤 大輔³

1. 平谷こども発達クリニック、2. 北里大学大学院 医療系研究科発達精神医学、
3. 安田女子大学 心理学部現代心理学科

P15-5 Late Preterm 児における神経発達予後 - ABCD Study の大規模脳画像データからの知見

○吉馴 亮子^{1・2}、友田 明美^{1・2}

1. 福井大学医学部附属病院、2. 福井大学子どものこころの発達研究センター

14:40-15:40

ポスター 16

ASD 6

司会：藤田 純一（横浜市立大学精神医学教室）

P16-1 福祉との連携で地域移行した強度行動障害を伴う重度知的障害、自閉スペクトラム症の10代の一例
山元 美和子、會田 千重、三好 紀子、浪花 孝明、大坪 建、諸岡 知美、石津 良子、山下 葉子
肥前精神医療センター

P16-2 児童思春期の自閉スペクトラム症児における抑うつ状態

ー Birleson 自己記入式抑うつ評価尺度（DSRS-C）を用いてー

○五十嵐 知子¹、平岩 明子^{2,3}、金子 直史¹、立花 春子¹、高崎 麻美²、水本 有紀⁴、稲崎 久美⁴、箱島 有輝⁴、板垣 琴瑛⁴、山本 啓太⁴、木原 弘晶⁵、宇佐美 政英⁴、辻井 農重³

1. 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、2. 富山大学学術研究部医学系小児科、
3. 富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座、4. 国立国府台医療センター児童精神科、
5. 金沢医科大学精神神経科学

P16-3 血液検査を拒否する自閉症スペクトラム児の検討

渡部 泰弘

秋田県立医療療育センター 小児科

P16-4 自閉スペクトラム症者を対象とした就労準備プログラムの作用と帰趨状況

○内田 晃裕¹、西村 大樹^{1,2,3}、藤田 純嗣郎¹、小西 菜緒¹、南場 美沙都¹

1. 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター、2. 岡山大学社会文化科学研究科客員研究員、
3. 岡山大学教育推進機構

P16-5 自閉スペクトラム症特性と感覚処理特性および不適応行動の関連

ーネットワーク分析を用いた個別項目レベルの検討ー

○春日 佑都¹、足立 匡基²

1. 早稲田大学 大学院 人間科学研究科、2. 明治学院大学心理学部心理学科

2日目 11月14日（金）G会場 AOSSA 6F 福井市地域交流プラザ 研修室 602

10:10-11:10

ポスター 9

リエゾン・治療連携 1

司会：大瀧 和男（かずおメンタルクリニック）

P9-1 三重県立子ども心身発達医療センターにおける児童精神科初診と地域支援ネットワークについて

○高木 千恵、中西 大介

三重県立子ども心身発達医療センター

P9-2 児童発達支援事業所、放課後等デイサービスにおける食育プログラムに関わる管理栄養士の活動報告

○那須野 清夏^{1,2}、渡部 弥生^{1,2}、後藤 詩織^{1,2}、小池 友香^{1,2}、永井 司^{1,2}、瀧谷 佐季^{1,2}、石川 愛実^{1,2}、佐々木 暁^{1,2}、北村 舞香²、下里 侑子²、立野 慶²

1. 医療法人社団ユニメディコ 児童発達支援・放課後等デイサービス ほにー、
2. 医療法人社団ユニメディコ 藤が丘こころのクリニック

P9-3 駒木野病院児童青年期サポートルーム「すこやか」の取り組み② 成人病棟に分散する児童・青年期患者のための居場所づくり：青年期入院グループの試み

○伊東 史エ、岡野 良子、岩垂 喜貴、吉田 奈緒美、笠原 麻里

医療法人財団青溪会 駒木野病院

P9-4 長期入院の小児がん治療中にみられた行動上の問題に対して心理教育と多職種支援を行った一例

○平岩 明子^{1,2}、高崎 麻美²、五十嵐 知子³、金子 直史³、立花 春子³、辻井 農重¹

1. 富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座、2. 富山大学学術研究部医学系小児科、
3. 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座

11:20-12:20

ポスター 13

リエゾン・治療連携 2

司会：岡崎 玲子（福井大学保健管理センター）

P13-1 精神疾患をもつ母親における授乳方法の検討：疾患別の比較と向精神薬使用との関連

○蔵満 彩結実、大井 一高、塩入 俊樹

岐阜大学医学部附属病院精神科

P13-2 小児医療における子どもの死の概念とグリーフケアに関する文献調査

三宅 和佳子

兵庫県こころのケアセンター

P13-3 駒木野病院児童青年期サポートルーム「すこやか」の取り組み① 関係性からはじまる回復
～多職種チームの実践と“名もなき支援”の意義～

○岡野 良子、伊東 史エ、岩垂 喜貴、吉田 奈緒美、笠原 麻里

医療法人財団青溪会 駒木野病院

P13-4 単一施設に勤務する小児科医を対象とした、10代の自傷・自殺に関する意識と対応教育の効果
－ TALK 原則に基づく講義による態度変容と教育ニーズの検討－

中村 俊一郎

慶應義塾大学医学部小児科

P13-5 急性リンパ性白血病の治療経過で、反復する攻撃性の爆発が出現した一例

○安本 真衣¹、大坂 陽子¹、湯浅 慧吾²、佐野 滋彦²、亀谷 仁郁²、宮岸 良彰²、廣澤 徹¹、
菊知 充²

1. 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科児童青年期精神医学講座、

2. 金沢大学医薬保健研究域医学系精神行動科学

14:40-15:40

ポスター 17

強迫症・チック症など2

司会：松浦 広樹（ハートランドしぎさん）

P17-1 奈良県立医科大学精神科児童思春期外来における強迫症に対する選択的セロトニン再取り込み阻害剤の処方調査

○濱野 泰光¹、水井 亮¹、平井 靖明¹、土居 史磨¹、北野 肖奈¹、山中 清里¹、生野 兼広¹、安田 真和¹、前田 祐里²、後藤 晴栄³、山室 和彦^{1,4}、浦谷 光裕⁵、太田 豊作⁶、岡田 俊¹

1. 奈良県立医科大学 精神医学講座、2. 万葉クリニック 精神科、
3. 奈良県総合医療センター 精神科、4. 奈良県立医科大学 健康管理センター、
5. 万葉クリニック 子どものこころセンター絆、6. 奈良県立医科大学 人間発達学

P17-2 チック症に対するオンライン心理教育教材の有効性の検討

○野中 舞子^{1,2}、松田 なつみ^{2,3}、藤原 麻由²、江里口 陽介⁴、佐々木 宏太²、金生 由紀子^{2,5}

1. 帝京大学文学部、2. 東京大学医学部附属病院こころの発達診療部、
3. 白百合女子大学人間総合学部、4. 世田谷用賀クリニック、5. 全国療育相談センター

P17-3 注意欠如多動症および自閉スペクトラム症に合併したトゥレット症男児の音声・運動チックにチペビジンが効果を示した1例

○橘 真澄¹、山崎 史暁²、焼田 まどか³、佐々木 剛²

1. 千葉大学総合安全衛生管理機構、2. 千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部、
3. 学会会木村病院

P17-4 入院による行動療法的アプローチとフルボキサミンが有効であったトゥレット症候群を伴う自閉スペクトラム症の1例

○平澤 桃子、長沢 崇

東京都立小児総合医療センター 児童思春期精神科

P17-5 トランスジェンダー女性の事例を用いた講義が与える当事者イメージへの影響

○松原 愛¹、武田 俊信²

1. 龍谷大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻、2. 龍谷大学心理学部

10:10-11:10

ポスター 10

学校精神保健 2

司会：井川 典克（いかわクリニック）

P10-1 岡崎市における医療と教育の連携による不登校対策について

○長井 典子¹、松沢 麻衣子^{2・3}、福本 由紀子^{1・3}、高橋 ゆま^{1・3}、大賀 肇^{3・4}

1. 岡崎市民病院 小児科、2. 岡崎市民病院 新生児小児科、3. 岡崎市こども発達センター、
4. 三河病院

P10-2 小中学生におけるインターネットゲーム依存と精神的健康度および QOL との関係

○久保木 智洸^{1・2}、篠山 大明^{3・4}、本田 秀夫^{3・5}

1. 信州大学大学院総合医理工学研究科、2. 山梨県立大学 人間福祉学部福祉コミュニティ学科、
3. 信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室、4. 信州大学医学部 精神医学教室、
5. 信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部

P10-3 小中学生向けの新しい孤独感尺度－KULoS－の開発

○小曾根 洋紀¹、寺田 光璃¹、横山 華月¹、柴山 枝里佳¹、田中 早苗³、亀谷 仁郁⁵、村山 恭朗^{2・3}、辻井 正次^{3・4}、菊知 充^{3・5}

1. 金沢大学大学院人間社会環境研究科、2. 金沢大学人間社会研究域、
3. 金沢大学こどものこころの発達研究センター、4. 中京大学現代社会学部、
5. 金沢大学医薬保健研究域医学系精神行動科学

P10-4 改訂サッター・アイバーグ児童生徒の行動評価尺度（Sutter-Eyberg Student Behavior Inventory-Revised：SESBI-R）の適用年齢拡大に向けた予備的研究

○松本 慶太¹、加藤 郁子²、加茂 登志子³

1. 大阪市立総合医療センター 児童青年精神科、2. さいたま市子ども家庭総合センター、
3. 若松町こころとひふのクリニック

P10-5 新潟いじめ予防・介入プログラム：学校でのいじめ被害にあった児童・青年のメンタルヘルスを促進するためのモデル提案

○笠原 寛之¹、杉本 篤言¹、吉永 清宏^{1・2}、江川 純¹

1. 新潟大学医歯学総合病院、2. 新潟県立精神医療センター

11:20-12:20

ポスター 14

統合失調症・ARMS など

司会：赤間 史明（東海大学医学部附属病院）

P14-1 初潮前より周期的に多彩な精神症状を呈した月経関連精神病の症例

○湯浅 慧吾¹、大坂 陽子²、安本 真衣²、佐野 滋彦¹、亀谷 仁郁¹、宮岸 良彰¹、廣澤 徹²、菊知 充¹

1. 金沢大学医薬保健研究域医学系精神行動科学、
2. 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科児童青年期精神医学講座

P14-2 統合失調症症状を呈した2例の考察

○百溪 さゆり²、久保 洋一郎²、青木 悠²、高山 真衣²、川端 康雄²、矢藤 来未²、大西 尚哉²、~~竹井 謙貴²、越智 文²~~、藤本 健士郎²、岡山 達志^{1・2}、木下 真也²、金沢 徹文²

1. いわくら病院、2. 大阪医科薬科大学神経精神医学教室

P14-3 小児科・精神科臨床における Child Psychosis-risk Screening System の導入：Child Behavior Checklist (CBCL) を用いた新たなアプローチ

○濱崎 由紀子^{1・2}、阪上 由子³、上羽 智子⁴、六田 泰央⁵、磯部 昌憲⁵

1. 京都女子大学現代社会学部、2. 医療法人藤樹会滋賀里病院、
3. 滋賀医科大学医学部小児科学講座、4. 済生会守山市民病院小児科、
5. 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室

P14-4 可逆性脳梁膨大部病変（reversible splenial lesion syndrome; RESLES）を呈し、幻覚妄想状態となった男児の一例

○小林 有里、千代田 高明、佐藤 彩、佐藤 亜希子、松本 貴智、板垣 俊太郎

1. 福島県立医科大学附属病院

P14-5 母親の死を契機に制汗剤の習慣的吸引を開始し、吸入剤依存症に至った14歳男児の治療経過

○平田 真之将^{1・2}、魚谷 和史²、小瀬 朝海¹、紀本 創兵²

1. 和歌山県立こころの医療センター、2. 和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室

14:40-15:40

ポスター 18

精神療法・心理療法など3

司会：島内 智子（聖マリアンナ医科大学 神経精神科）

P18-1 自閉スペクトラム症児との面接において＜遊ぶこと＞を共有する意義

ー実母不在の自分と向き合う過程ー

○竹内 澄子¹、伊藤 千晶¹、荒川 志保¹、岩垂 喜貴²、齊藤 万比古¹

1. 松戸東口たけだメンタルクリニック、2. 駒木野病院

P18-2 テーブルトーク・ロールプレイングゲーム（TRPG）を用いた 集団療法の実践 1

ー治療構造についての考察ー

○中里 容子、平田 平、太田 智佐子、高嶋 裕子、大江 舞、入砂 文月、山登 敬之

1. 明治大学子どものこころクリニック

P18-3 テーブルトーク・ロールプレイングゲームを用いた集団療法の実践 2

ー自閉スペクトラム症を持つ小学6年生男児の症例に沿ってー

○平田 平、中里 容子、太田 智佐子、高嶋 裕子、大江 舞、入砂 文月、山登 敬之

明治大学子どものこころクリニック

P18-4 児童精神科外来におけるオープンダイアログの手法に基づいた診療の取り組みと現状報告

○山路 由夏、中村 朔也、大原 伸騎、永野 志歩

高知県高知市病院企業団立高知医療センター こころのサポートセンター

P18-5 小児期から思春期における登校・生活状況と学習意欲・自己評価との関連

○河野 由依¹、服部 小太郎¹、仲田 真理子¹、瀬戸川 剛^{2・3}、森 昭憲⁴

1. 筑波大学・行動神経内分泌学研究室、2. 富山大学・医学部、

3. 富山大学・アイドリング脳科学研究センター、

4. 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

2日目 11月14日（金）|会場 ハピリン 3F ハピリンホール

9:00-10:30

シンポジウム 11

限局性学習症とその周辺領域

司会：末田 慶太郎（札幌市子ども心身医療センター 児童精神科）

司会：柳生 一自（北海道医療大学 心理科学部 臨床心理学科 教授）

S11-1 限局性学習症への認知神経科学的アプローチ

北 洋輔（慶應義塾大学 文学部 准教授）

S11-2 認知プロセスに基づく限局性学習症のアセスメントー読解モデル活用と書字困難の多因子的理解ー

奥村 智人（大阪医科薬科大学 小児高次脳機能研究所 特務講師）

S11-3 児童精神科における限局性学習症の評価、診断の重要性：演者の実践の紹介

末田 慶太郎（札幌市子ども心身医療センター 児童精神科）

S11-4 東京都立大塚病院における限局性学習症に対する支援について

～医療現場での実践的な LD 支援の報告～

久保田 康介（東京都立病院機構 東京都立大塚病院 児童精神科 医員）

10:40-12:10

シンポジウム 14

児童思春期病棟における子どもの秘密と嘘

司会：堀川 直希（のぞへの丘病院 医局 院長）

司会：佐々木 宏太（東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部）

S14-1 入院患者の秘密と嘘への看護師の葛藤と苦悩

木戸口 和樹（医療法人翠星会 松田病院 看護部 病棟看護師長）

S14-2 児童思春期病棟における子どもの秘密と嘘 多摩あおば病院に入院する子ども達
～開設4年目の現状～

清野 聡子（多摩あおば病院 4病棟）

S14-3 児童思春期病棟での秘密と嘘をめぐる対応について

佐久間 陸貴（社会医療法人あさかホスピタル 児童思春期診療部 部長）

S14-4 「嘘と秘密について」－向陽台病院での経験から－

横田 周三（医療法人 横田会 向陽台病院 児童精神科 理事長）

指定発言：関 正樹（大湫病院 児童精神医療センター）

12:20-13:20

共催セミナー 3（ヤンセンファーマ株式会社）

ADHD 患者の小児期から成人期への移行支援

司会：菊知 充（金沢大学医薬保健研究域医学系精神行動科学 神経科精神科）

演者：石崎優子（関西医科大学総合医療センター 小児科）

13:30-14:20

教育講演 8

インターネット・ゲーム依存について

司会：田中 容子（府中刑務所 医務部）

演者：吉川 徹（愛知県西三河福祉相談センター 西三河児童・障害者相談センター）

14:40-16:10

シンポジウム 16

テクノロジーを用いた子どもへの発達支援

司会：片桐 正敏（北海道教育大学旭川校 教育発達専攻特別支援教育分野 教授）

司会：熊崎 博一（長崎大学医学部 精神神経科学教室 主任教授）

S16-1 対話型小型ロボットを活用した発達支援の可能性

吉川雄一郎（大阪大学 大学院基礎工学研究科）

S16-2 AI による臨床支援の革新：臨床行動情報学を基盤とした第4世代の臨床心理学

横谷 謙次（徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 准教授）

S16-3 発達障害児支援におけるテクノロジー活用：行動の定量化と自動フィードバックの可能性

松田 壮一郎（筑波大学 人間系 助教）

S16-4 発達障害支援におけるロボットの果たすべき役割

熊崎 博一（長崎大学医学部 精神神経科学教室 主任教授）

16:20-17:50

シンポジウム 19

改めて、精神力動的な視点を児童思春期の治療に生かす

司会：堀川公平（のぞえ総合心療病院 医局 理事長・院長）

S19-1 治療共同体に基づく児童思春期患者への看護ー子供達へ関わりこそが精神科看護の未来を拓くー
川野 豊（医療法人コミュニテ風と虹 のぞえ総合心療病院 看護部 看護部長）

S19-2 児童思春期の入院治療で行う精神力動的な視点を生かしたチームアプローチ
堀川 直希（のぞえの丘病院 医局 院長）

S19-3 改めて、精神力動的な視点を児童思春期の治療に生かす
ー児童心理治療施設の子供達との治療共同体ー
菊池 清美（社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園 名誉施設長）

S19-4 精神力動的視点から見た森田療法の現在ー思春期青年期臨床への適用と展開
山下 洋（九州大学病院 子どものこころの診療部 特任准教授）

9:00-10:00

一般口演 11

自施設の取組 3

司会：宮脇 大（大阪市立総合医療センター 児童青年精神科）

011-1 読字障害（発達性ディスレクシア）の学業不振の実態と読み書き・文章読解・英語指導 第1報：福井県の中学生ディスレクシアの学業不振の実態、特に深刻な英語の不振

○平谷 美智夫²、滝口 慎一郎²、清水 宏樹²、杉江 直哉^{2,3}、為国 順治⁴、原 恵子⁵、藤岡 徹⁶、平谷 清吾^{2,7}、松浦 直己¹

1. 三重大学教育学部、2. 平谷こども発達クリニック、3. 名古屋大学大学院、4. 嶺南西特別支援学校、5. 上智大学言語科学研究科、6. 福井大学教育学部、7. 松原病院精神科

011-2 読字障害（発達性ディスレクシア）の学業不振の実態と読み書き・文章読解・英語指導 第2報：平谷デージー教室における発達性ディスレクシアへの情報通信技術活用型読解指導の実践：読解力・タイピング・語彙支援の多層的アプローチ

○清水 宏樹¹、杉江 直哉^{1,3}、為国 順治⁴、原 恵子⁵、藤岡 徹⁶、平谷 清吾^{1,7}、滝口 慎一郎¹、平谷 美智夫¹、松浦 直己²

1. 平谷こども発達クリニック、2. 三重大学教育学部、3. 名古屋大学大学院、4. 嶺南西特別支援学校、5. 上智大学言語科学研究科、6. 福井大学教育学部、7. 松原病院

011-3 読字障害（発達性ディスレクシア）の学業不振の実態と読み書き・文章読解・英語指導 第3報：平谷デージー英語教室での取り組み：杉江式英語フリガナ法を用いた英単語認知トレーニングによる指導 効果

○杉江 直哉^{1,2}、松浦 直己³、清水 宏樹²、為国 順治⁴、原 恵子⁵、藤岡 徹⁶、平谷 清吾^{2,7}、滝口 慎一郎²、平谷 美智夫²

1. 名古屋大学大学院、2. 平谷こども発達クリニック、3. 三重大学教育学部、4. 嶺南西特別支援学校、5. 上智大学言語科学研究科、6. 福井大学教育学部、7. 松原病院精神科

011-4 医療現場におけるペアレント・トレーニング基本プラットフォーム版の有用性－ハートランドしぎさんこどものこころ診療センターにおける効果検証－

○久保 信代^{1,2}、太田 あかね¹、秦 香苗¹、岡崎 康輔¹、河野 いずみ¹、松浦 広樹¹、根来 秀樹¹

1. 一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさんこどものこころ診療センター、2. 関西福祉科学大学心理科学部

011-5 TAIYO Project2025－小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画－

○佐々木 剛^{1,2}、山崎 史暁^{1,2}、廣瀬 祐紀^{1,2}、永野 顕信¹、村山 綾香^{1,3}、小池 友紀¹、早津 龍之介^{1,2}、林 瑤子^{1,2}、御園 覚夫¹、篠田 菜々³、阿久津 実彩³、川口 恭央^{1,2}、高橋 純平⁴、久能 勝^{5,6}、倉田 勉^{2,7}、石川 真紀⁸、橘 真澄⁹、細田 豊¹⁰、中里 道子¹¹、磯野 友厚¹²、青木 勉¹²、篠田 直之⁴、安藤 咲穂¹³、志津 雄一郎¹⁴

1. 千葉大学医学部附属病院 こどものこころ診療部・精神神経科、2. 千葉大学大学院医学研究院 精神医学、3. 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学、4. 千葉市立青葉病院 児童精神科、5. 千葉大学 こどものこころの発達教育研究センター、6. 平安堂こころのクリニック、7. ふさのくにメンタルクリニック、8. 千葉県こころセンター、9. 千葉大学 総合安全衛生管理機構、10. 同仁会 木更津病院、11. 国際医療福祉大学成田病院 精神科、12. 総合病院国保旭中央病院 神経精神科、13. 千葉県こども病院 精神科、14. 医療法人双和会 志津クリニック

10:10-11:10

一般口演 13

自施設の取組 4

司会：才野 均（北海道立子ども総合医療・療育センター精神科）

O13-1 読字障害（発達性ディスレクシア）児のタイピングスキル形成に対する入力情報の提示の工夫：ディスレクシアには聴覚提示様式が視覚提示様式より有効である

○石谷 禎孝¹、平谷 清吾^{2・3}、滝口 慎一郎²、平谷 美智夫²、松浦 直己¹

1. 三重大学教育学部、2. 平谷こども発達クリニック、3. 松原病院精神科

O13-2 児童病棟への患者受け入れに関する当院の試み

辻 里花

愛知県精神医療センター

O13-3 児童思春期病棟入院患者を対象とした弁証法的行動療法の要素を用いた暴力への取り組み

○高里 文香¹、加藤 志保²、吉岡 真吾¹

1. 愛知県精神医療センター、2. 愛知県医療療育総合センター中央病院

O13-4 のぞえの丘病院における「からだグループ」という居場所

～ことばにすることが難しい子どもたちへのからだをとおした関わり～

長島 裕

医療法人コミュニテ風と虹 のぞえの丘病院

11:20-12:20

一般口演 15

外来・入院統計 3

司会：根来 秀樹（一般財団法人信貴山病院 ハートランドしぎさん）

O15-1 若年女性に急増する自殺とその家族背景についての考察

○久納 一輝、松本 和美、山本 佳将、吉見 謙一、佐野 樹、森川 将行

三重県立こころの医療センター

O15-2 感覚プロファイルによる自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症の感覚特性比較

○岩屋 悠生^{1・2}、高田 加奈子¹、松本 美菜子¹、今村 要介¹、香月 大輔¹、山根 謙一¹、山下 洋¹

1. 社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院、2. 医療法人横田会 光陽台病院

O15-3 児童思春期病棟における行政支援と入院期間の関連：後方視的記述研究

○別府 翼¹、森田 由佳¹、神蘭 淳司¹、安部 泰弘¹、植木 悠介¹、梶原 眞理¹、坂本 奈緒²、

大治 太郎¹

1. 福井県立病院、2. 福井県こども療育センター、3. 育ちのクリニック津田

O15-4 福井県こども療育センターでの初診時間診表の受診目的の検討

○齋藤 志織¹、川谷 正男²、津田 明美³

1. 福井県立病院、2. 福井県こども療育センター、3. 育ちのクリニック津田

14:40-15:40

一般口演 18

その他 1

司会：野邑 健二（名古屋大学心の発達支援研究実践センター）

018-1 ベンチコートの奥に思いを秘めた男児の治療経過について

○箱島 有輝、山本 啓太、板垣 琴瑛、稲崎 久美、水本 有紀、宇佐美 政英
国立健康危機管理研究機構国府台医療センター

018-2 都立小児総合医療センターにおける子どものこころ専門医研修

○長沢 崇
地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科

018-3 三重県大里地区子どものこころ専門医研修施設群における 研修に関するアンケートのまとめ

○大橋 浩¹、大槻 一行²、中西 大介²
1. 国立病院機構 三重病院 小児科、2. 三重県立子ども心身発達医療センター 児童精神科

018-4 入院治療により著しい改善を得た強度行動障害を伴う自閉スペクトラム症の一例

○矢野 瑞季、海老島 健、長沢 崇
東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科

018-5 強度行動障害をもつ者のための生活の質評価尺度作成の試み

○田中 恭子¹、會田 千重²、井上 雅彦³
1. 国立病院機構菊池病院、2. 国立病院機構肥前精神医療センター、
3. 鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座

15:50-16:50

一般口演 21

その他 2

司会：柿元 真知（三重県立子ども心身発達医療センター医療部診療科）

021-1 神経線維腫症 1 型の高磁場 MR スペクトロスコピー認知特性の神経基盤の検討ー

○佐々木 彩恵子¹、磯部 昌憲³、庄司 りん²、六田 泰央²、森本 佳奈²、砂田 桃²、山田 晶子⁴、
上月 遥³、村井 俊哉^{2,3}
1. 京都大学医学部附属病院 小児科、2. 京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座、
3. 京都大学医学部附属病院 精神科神経科、
4. 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端作業療法学講座

021-2 転換性障害が疑われた発作性ジスキネジアの 1 例

○稲川 優多¹、柳橋 達彦²
1. 精神医学講座、2. とちぎ子ども医療センター子どもの心の診療科

**021-3 外国にルーツをもつ児童の受診におけるコミュニケーションに関する支援ニーズの検討ー
ー豊田市こども発達センターのぞみ診療所におけるアンケート調査を通してー**

○久保 美衣子、新美 恵理子、神谷 真巳、若子 理恵、高橋 脩
豊田市子ども発達センター

021-4 脳霧症状を呈し生活障害において家族支援を要した long COVID の 14 歳女児

○名嘉山 賀子¹、石橋 孝勇²、照屋 美波²、大城 市子²
1. 琉球大学病院 育成医学講座（小児科）、2. 琉球大学病院 精神科神経科、

021-5 大学生と大学院生の推し活および推し疲れに関する研究

○菊地 舞衣、本多 奈美
東北大学教育学研究科

17:00-18:00

一般口演 24

強迫症・チック症など 1

司会：篠山 大明（信州大学医学部附属病院）

O24-1 難治性強迫性障害の病態に局在不明焦点てんかんの関与が示唆された一例

○佐藤 亜希子¹、千代田 高明¹、小林 有里¹、佐藤 彩¹、和田 知紘¹、伊瀬 陽子¹、松本 貴智¹、
國井 泰人^{1,2}、増子 博文¹、板垣 俊太郎¹

1. 福島県立医科大学神経精神医学講座、2. 東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野

O24-2 重症トゥレット症候群の小学生女児の入院経過

○大橋 陸巳、宇佐美 政英、箱島 有輝、稲崎 久美、水本 有紀

国立国府台医療センター

O24-3 脳動静脈奇形破裂による脳出血後に強迫行為を伴う器質性精神障害を発症した 1 例

○森崎 敦夫、海老島 健、長沢 崇

東京都立小児総合医療センター

O24-4 高用量アリピプラゾールの使用により自我違和感の表出が可能となり治療が進んだ強迫症の一例

○関口 真理子、吉田 賢、海老島 健、長沢 崇

地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科

O24-5 パニック発作を伴う重症強迫症の児童に対する多面的な曝露療法：症例報告

東 琢磨

福井県立病院こころの医療センター

2日目 11月14日（金）K会場 コートヤード・バイ・マリオット福井 4F 芙蓉の間

9:00-10:30

症例検討 3

司会：岩佐 光章 先生（横浜市総合リハビリテーションセンター 発達精神科）

スーパーバイザー：大石 聡（独立行政法人静岡県立病院機構 静岡県立こども病院）

C3-1 京都地域支援者が関係構築に難渋していた複雑性心的外傷後ストレス障害の若年女性に対し、出産を機に多機関連携支援を行うことができた一症例

桑原 明子¹、飯田 直子¹

京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学

10:40-12:10

若手講演

司会：幅田 加以瑛（福井大学 医学部 精神医学）

Y1-1 「モーズレイの光」が教えてくれたこと～愛・尊厳・祈り～

眞田 陸（福井大学 医学部 精神医学）

Y1-2 子どもたちと奏でる精神医学

福元 進太郎（福井大学 医学部 精神医学）

Y1-3 放課後教室 Together の挑戦：子どもと大学生が共に育つ居場所づくり

船木 陽介、平野 陽士（福井大学 医学部）

12:40-15:10

映画上映「大きな家」

15:20-16:50

症例検討 4

司会：田中 容子（府中刑務所）

スーパーバイザー：笠原 麻里（医療法人財団青溪会 駒木野病院）

C4-1 性被害およびいじめを背景とし、解離性同一症を伴う複雑性心的外傷後ストレス障害と診断された13歳女性

島田 園子¹、堀内 愛佳²、水野 有香¹、渡真利 眞治¹、友田 明美²、小坂 浩隆¹

1. 福井大学医学部附属病院精神医学、2. 福井大学医学部附属病院子どものこころ診療部

18:30

懇親会

3日目 11月15日（土）A会場 AOSSA 8F 福井県県民ホール

9:00-10:30

シンポジウム 20

児童青年期におけるコンサルテーション・リエゾン精神医学

司会：高橋 秀俊（高知大学 医学部・寄附講座 児童青年期精神医学 特任教授）

司会：中土井 芳弘（独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター児童精神科）

S20-1 子どものコンサルテーション・リエゾン精神医学の特徴

庄 紀子（神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科 部長）

S20-2 児童青年期の摂食症診療における多施設連携

鈴木 太（上林記念病院 こども発達センターあおむし）

S20-3 児童青年期における心臓移植・心不全領域のコンサルテーション・リエゾン精神医学—子どものサイコカルディオロジー—

嶺地 道代（国立循環器病研究センター 精神神経科）

S20-4 小児腎不全・腎移植における精神科医の役割

押淵 英弘（東京女子医科大学 医学部・精神医学講座 准教授）

S20-5 災害時における子どものリエゾン診療

本田 教一（公益財団法人 舞子浜病院 精神科 病院長）

10:40-12:10

シンポジウム 25

性加害少年の実態と治療について

司会：定本 ゆきこ（京都少年鑑別所 医務課 医務課長）

司会：上野 千穂（京都市児童福祉センター診療所 診療療育課 診療所長）

S25-1 児童相談所でできる性加害少年へのサポートとは

上野 千穂（京都市児童福祉センター診療所 診療療育課 診療所長）

S25-2 少年鑑別所で見える性加害少年の現状と治療への課題

定本 ゆきこ（京都少年鑑別所 医務課 医務課長）

S25-3 子どもと性加害—包括的地域トリートメントの試み

斉藤 章佳（西川口榎本クリニック 副院長）

12:20-13:20

共催セミナー 4（武田薬品工業株式会社）

ADHD 治療における薬物療法～ADHD 女子例も含めて～

司会：小坂 浩隆（福井大学医学部 精神医学）

演者：堀内 史枝（愛媛大学大学院 医学系研究科 児童精神医学講座）

13:40-14:40

特別講演3

こどもの自殺対策の現況について

司会：岡田 俊（奈良県立医科大学 精神医学講座）

司会：三上 克央（東海大学医学部 総合診療学系精神科学）

演者：小野 雄大（こども家庭庁 こども家庭庁支援局総務課）

15:10-15:40

閉会式

3日目 11月15日（土）B会場 AOSSA 8F リハーサル室

9:00-10:00

一般口演 25

摂食症 3

司会：生地 新（まめの木クリニック）

O25-1 思春期の摂食障害患者が治療に向き合えるまでの体験

○中島 道子¹、川端 智子¹、古株 ひろみ¹、尾関 祐二²、増田 史²

1. 滋賀県立大学人間看護学研究院、2. 滋賀医科大学 精神医学講座

O25-2 4症例の入院治療からうかがえる回避・制限性食物摂取症（ARFID）の病態の複雑さ

○原田 健一郎、光井 瞳、藤井 優子、佐藤 裕子、樋口 文宏、中川 伸

山口大学医学部附属病院 精神科神経科

O25-3 長浜赤十字病院における小児科病棟と精神科病棟での摂食障害治療について

○池田 仁、沖野 剛志

長浜赤十字病院

O25-4 児童思春期摂食症診療の年齢層による比較検討

○磯部 昌憲、米田 拓矢、栗添 恵理、山田 真穂、柴田 直人、辻元 健太郎、上月 遥

京都大学医学部附属病院

10:10-11:10

一般口演 28

摂食症 4

司会：杉坂 夏子（福井厚生病院 ストレスケアセンター）

O28-1 インスリンオミッションを呈した1型糖尿病併存の神経性過食症の一例

○中村 佳夏¹、和久田 智靖¹、竹林 淳和¹、高貝 就²

1. 浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科、2. 浜松医科大学児童青年期精神医学講座

O28-2 学童期に初診した「食べた後嫌悪するべき結果が生じることへの不安」を呈する回避・制限性食物摂取症の外来3症例における治療の個別性に関する検討

○樋口 文宏、原田 健一郎、光井 瞳、中川 伸

山口大学医学部附属病院 精神科神経科

O28-3 広汎性拒絶症候群の治療経過中に尿閉を伴う Dysfunctional Voiding を合併した11歳女児

○小尾 誠治、稲川 優多、柳橋 達彦

自治医科大学附属病院

O28-4 自閉スペクトラム症、1型糖尿病を合併した摂食障害症例を通じて

○中谷 圭吾^{1・2}、佐々木 祥乃²

1. 田宮病院、2. 東京科学大学病院

11:20-12:20

一般口演 31

青年期

司会：金井 講治（三重大学 保健管理センター）

031-1 発達特性の違いが若年成人の問題のあるインターネット使用に及ぼす影響：注意欠如多動症・自閉スペクトラム症の観点からの検討

○吉川 麟作、山田 晶子、義村 さや香

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻

031-2 自閉スペクトラム症の若者が直面するマイノリティ・ストレス：能力主義的マイクロアグレッション経験と社会的カモフラージュにおける外的受容感と孤独感の連鎖媒介の役割

○管 思清、奈村 玲里、大島 郁葉

千葉大学子どものこころ発達教育研究センター

031-3 青年期の自殺関連行動における構造的関連の可視化：ASD・ADHD 特性を中心としたネットワーク分析

○足立 匡基^{1・5・6}、高橋 芳雄^{3・5・6}、森 裕幸^{4・6}、村上 智生¹、春日 佑都⁷、打和 望実²、蒲 みのり²、奥田 奈葉²、中村 和彦⁵

1. 明治学院大学心理学部心理学科、2. 明治学院大学大学院心理学研究科、
3. 東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター、4. 埼玉学園大学人間学部心理学科、
5. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、6. 公益社団法人子どもの発達科学研究所、
7. 早稲田大学大学院人間科学研究科

031-4 ポストパンデミックにおける若者の身体・心理的健康の変容：地方大学新入生の検討

○岡崎 玲子¹、永田 利彦²、山下 達久³、小坂 浩隆⁴

1. 福井大学保健管理センター、2. なんば・ながたメンタルクリニック、
3. からすま五条・やましたクリニック、4. 福井大学医学部精神医学

13:30-15:00

薬事委員会セミナー

デジタルアプリをいかに児童青年期の精神科臨床に用いるのか？

司会：太田 豊作（奈良県立医科大学 人言発達学）

司会：辻井 農重（富山大学附属病院 こどものこころと発達診療学講座）

CS8-1 今どきの子どもとアプリとの関わり

宇佐美 政英（国立国際医療研究センター 国府台病院児童精神科）

CS8-2 注意欠如多動症に対するデジタルセラピューティクスの臨床的有用性と課題

岡崎 康輔（一般財団法人信貴山病院 ハートランドしぎさん）

CS8-3 子どもの眠りをよくするためにデジタルデバイスは有用か

堀内 史枝（愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座）

CS8-4 うつ病に対するデジタル治療の現状と児童思春期への応用に向けた課題

木原 弘晶（金沢医科大学病院 精神神経科）

CS8-5 精神科医が知っておくべき医療用ソフトウェアの承認の必要事項と精神科医療への実装可能性

藤田 純一（横浜市立大学附属病院 児童精神科）

9:00-10:00

一般口演 26

トラウマ1

司会：森本 武志（福井大学子どものこころの発達研究センター）

026-1 ト라우マ関連障害に対するトラウマフォーカスト認知行動療法の自閉スペクトラム症の合併例と非合併例の比較検討

○吉岡 靖史、山家 健仁、内出 希、松尾 菜津美、石山 雄大、佐々木 夢佳、安藤 佑祥、八木 淳子
岩手医科大学神経精神科学講座

026-2 群馬病院におけるメンタライジングな治療と支援

ーメンタライゼーションに基づく治療（Mentalization- Based Treatment）、子どもと親への支援、地域連携ー

○黒江 美穂子、渡部 京太
群馬病院

026-3 子どものウソ（ファンタジー）にどう対応すべきかの考察

～児童成人混合病棟でのグループ間の対立、一児の偽りが同時多発的な自殺企図・解離・多重人格の顕在化など多彩な変化をもたらしたケース～

○西原 浩司、辺士名 優美子
天久台病院

026-4 境界性パーソナリティ障害と複雑性心的外傷後ストレス障害 その相違と相似

吉村 淳
美喜和会 オレンジホスピタル

10:10-11:10

一般口演 29

トラウマ2

司会：亀岡 智美（兵庫県こころのケアセンター）

029-1 解離性幻覚を呈した神経発達症の児に対するトラウマ治療併用による支援の一例

○倉田 佐和、杉山 登志郎
福井大学子どものこころの発達研究センター

029-2 スミス・マグニス症候群の衝動性へのチャレンジ～男児一例を通してデイケア、地域支援を試みて～

○西本 佳世子¹、西川 季保¹、金子 和美¹、田崎 みどり^{1・2}
1. 医療法人鳳紀会 可知病院、2. 子どものこころとからだのクリニック CAC かながわ

029-3 幼児期の虐待環境で形成された神経諸症状からの社会復帰

○上野 大照¹、作田 泰章¹、堀上 千里²
1. さくメンタルクリニック、2. OhanaSun 訪問看護ステーション

029-4 親子複合型認知行動療法の要素を用いた面接で、両親の養育態度と児の易怒性が改善した一例

○藤村 奈未、櫻井 飛鳥、藤田 梓、山村 淳一
独立行政法人国立病院機構天竜病院長子どものこころのケアセンター

029-5 幼児退行と性別異和を合併した反応性愛着障害の一例

○梅谷 徳彦、長谷部 真歩
山梨県立北病院

11:20-12:20

一般口演 32

地域連携など 1

司会：高橋 秀俊（高知大学 医学部寄附講座 児童青年期精神医学）

032-1 児童精神科診療所における他機関との連携に関する実態調査～連携回数に影響を与える要因の検討

○牛島 洋景¹、川添 万葉¹、田岡 由紀子^{1・4}、忍足 美良乃²、渡邊 未来²、砂川 ひかる^{1・3}、篠原 玲奈¹、二宮 宗三^{1・2}

1. うしじまこころの診療所、
2. いちかわこころの相談所むすび葉、
3. 国立病院機構下志津病院、
4. 船橋市総合教育センター

032-2 児童精神科と岐阜市子ども・若者総合支援センターとの連携について

○柳澤 尚実¹、前田 重一²、栗林 英彦¹、高岡 健¹

1. 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター、
2. 岐阜病院

032-3 児童精神科診療所における地域連携の実際

～逆境体験から問題行動を起こす児童を地域で支えるために～

○川添 万葉¹、田岡 由紀子^{1・4}、二宮 宗三^{1・2}、忍足 美良乃²、渡邊 未来²、砂川 ひかる^{1・3}、篠原 玲奈¹、牛島 洋景¹

1. うしじまこころの診療所、
2. いちかわこころの相談所むすび葉、
3. 国立病院機構下志津病院、
4. 船橋市総合教育センター

032-4 東日本大震災後の発達支援におけるレジリエンスの生成

～複線径路等至性アプローチによる一事例分析～

○鈴木 美枝子

東日本大震災・原子力災害伝承館

032-5 児童思春期病棟における観察室の持つ意味 ～良性退行をもたらすために～

○山下 由美、萩尾 聖彦、飯星 貴宏、川野 豊、堀川 公平

のぞえ総合心療病院

13:30-15:00

症例検討 5

司会：水野 賀史（福井大学 子どものこころの発達研究センター）

スーパーバイザー：大島 郁葉（千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター）

C5-1 社会的カモフラージュが破綻し自己表出が困難となった女性に対する入院環境での支援

黒田 優希¹、眞田 康雄¹、間所 重樹¹

こころの森病院

9:00 ~ 10:30

国際委員会セミナー

デジタル社会での子どものメンタルヘルスへの影響について

司会：中村 和彦（弘前大学大学院 医学研究科 神経精神医学講座）

司会：齊藤 卓弥（北海道大学病院 子どものこころと発達センター）

CS6-1 Long-term Outcomes and Implementation of Digital Child Mental Health Interventions

Andre Sourander (Professor and chief physician, Department of Child Psychiatry, Director of Child Psychiatry Research Center, INVEST Flagship, Turku University and Turku University Hospital, Finland)

CS6-2 Internet Addiction Related Conditions in Taiwanese Youth : Prevalence, Correlates, Comorbidities and Intervention

Susan Shur-Fen Gau (Department of Psychiatry, National Taiwan University Hospital and College of Medicine, Taipei, Taiwan.)

CS6-3 How Adolescents in Japan Create Places of Belonging through SNS and Online Games

関 正樹（大湫病院）

閉会挨拶：金生 由紀子

10:40-12:10

シンポジウム 23

子どもたちの「好き」をみつめる：音楽、アニメ、ゲーム、ネットの世界

司会：福元 進太郎（福井大学 医学部 精神医学 助教）

司会：東 琢磨（福井県立病院 こころの医療センター）

S23-1 「アニメ療法」の誕生：好きなものが“生きる力”になるとき

パントー・フランチェスコ（慶應義塾大学病院 精神科）

S23-2 「好き」がつなぐ大人の世界と子どもの世界

関 正樹（大湫病院 児童精神医療センター）

S23-3 「好き」だと思えることを、「好き」でい続けられるためのまなざしについて

星野 俊弥（北里大学 医学部）

13:30-14:20

教育講演 9

WISC-V の基本事項

司会：藤岡 徹（福井大学 学術研究院教育・人文社会系部門）

演者：大六 一志（公認心理師）

9:00-10:30

シンポジウム 22

児童青年精神医学キャリア・カフェ

ー寄附講座としての児童精神医学の研究や臨床・教育の在り方を検討するー

司会：小坂 浩隆（福井大学医学部精神医学、福井大学子どものこころの発達研究センター）

司会：辻井 農重（富山大学附属病院 こどものこころと発達診療学講座 客員教授）

S22-1 北海道大学病院子どものこころと発達センターにおける児童精神科研修の取り組み

大島 由季代（北海道大学病院子どものこころと発達センター）

S22-2 長野県および松本市の委託による信州大学子どものこころの発達医学教室における児童青年精神医学の研修

本田 秀夫（信州大学 医学部子どものこころの発達医学教室 教授）

S22-3 相模原市寄附講座「地域児童精神科医療学」について

神谷 俊介（北里大学医学部精神科学

相模原市寄附講座「地域児童精神科医療学」）

S22-4 浜松医大児童青年期精神医学講座の活動について

高貝 就（浜松医科大学 児童青年精神医学講座 特任教授）

S22-5 名古屋市立大学病院こころの発達診療研究センターの取り組み

ー病院内の診療にとどまらない神経発達症医療の実践ー

山田 敦朗（名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 教授）

S22-6 富山県における児童精神科医としてのスキルアップとキャリア形成

辻井 農重（富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座 客員教授）

S22-7 児童青年精神医学キャリア・カフェ

ー寄附講座としての児童精神医学の研究や臨床・教育の在り方を検討するー

廣澤 徹（金沢大学 児童青年期精神医学 特任教授）

S22-8 福井大学で児童精神医学の臨床と研究をを実践しましょう

小坂 浩隆（福井大学医学部精神医学、福井大学子どものこころの発達研究センター）

S22-9 高知県での児童精神医学の学びと実践：高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学における取組について（第2報）

小松 静香、高橋 秀俊（高知大学医学部 寄附講座 児童青年期精神医学 特任助教）

S22-10 愛媛大学児童精神医学講座の設立と今後の展望

井上 彩織（愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座）

S22-11 長崎大学医学部精神神経科学教室における児童精神科医の育成：最新の科学技術導入の挑戦

清水 日智（長崎大学 医学部精神神経科学教室 助教）

10:40-12:10

教育に関する委員会セミナー

教育現場で高まるメタルケアニーズと学校教員支援ーポストコロナの不登校とその対応ー

司会：小野 和哉（聖マリアンナ医科大学 神経精神科学教室）

司会：吉川 徹（愛知県西三河福祉相談センター）

CS7-1 学校における働き方改革について

遠藤 雅典（文部科学省初等中等教育局財務課）

CS7-2 平成の終わりから令和にかけ増加し続ける小中の不登校の理解と対応

神村 栄一（新潟大学）

CS7-3 放課後等デイサービス・訪問看護による不登校児童生徒支援～可能性と課題～

清田 晃生（社会福祉法人別府発達医療センター大分療育センター）

CS7-4 メタバース支援

水瀬 ゆず

13:30-15:00

福祉に関する委員会セミナー

子どもの声を聴く

司会：陶山 寧子（横浜市中央児童相談所）

司会：早川 洋（こどもの心のケアハウス 嵐山学園（児童心理治療施設））

CS9-1 子どもの同意を大切に親子交流とはー共同親権施行に向けてー

上野 千穂（京都市児童福祉センター 診療所）

CS9-2 かかりつけ小児科医として「子どもの声を聴く」ということーなぜ私は一生懸命「聴く」のか

坂西 信彦（坂西医院 内科・小児科）

CS9-3 福祉の委員会セミナー 社会的養護 当事者の声を聴く

なつみかん（こどもの心のケアハウス 嵐山学園（児童心理治療施設））

指定討論：陶山 寧子

3日目 11月15日（土）F会場 AOSSA 6F 福井市地域交流プラザ 研修室 607

10:10-11:10

ポスター 20

地域連携など 2

司会：相原 加苗（東大阪市立障害児者支援センター内診療所）

P20-1 日本における脆弱 X 症候群の行動特性アセスメント実施体制の構築

○山本 彩¹

1. 札幌学院大学、2. 鳥取大学研究推進機構研究基盤センター、
3. 岡山大学学術研究院医歯薬学域臨床遺伝子医療学分野、4. 静岡県立こども病院遺伝染色体科、
5. 鳥取大学医学部医学科、6. 加古川中央市民病院、7. 緑ヶ丘療育園

P20-2 児童思春期に特化した訪問看護ステーションの5年間の看護実践報告

○堀上 千里¹、作田 泰章²、上野 大照²、藤好 昭一郎¹、金本 辰洋¹

1. OhanaSunh 訪問看護ステーション、2. さくメンタルクリニック

P20-3 「支援者への支援」という視点ー遠隔連携で拓く思春期・青年期の地域精神医療

○松井 友紀子、松井 裕介

まついこころのクリニック

P20-4 児童・思春期における精神保健福祉士の役割と課題についての考察

～主病名、年齢区分、相談種別に基づく分析と検討～

○澤井 創、吉田 茉美、西村 美穂、秦 香苗、河野 いずみ、松浦 広樹、岡崎 康輔、根来 秀樹
一般財団法人 信貴山病院 ハートランドしぎさん

P20-5 当院と児童相談所一時保護所の連携について

○栗林 英彦^{1・2}、柳澤 尚実¹、高岡 健¹

1. 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター 発達精神医学研究所、
2. 岐阜県中央子ども相談センター

10:10-11:40

ポスター 23

ASD 8

司会：大高 一則（医療法人 大高クリニック）

P23-1 自閉スペクトラム症成人用就労準備性チェックシートの信頼性・妥当性の検証

○西村 大樹^{1・2・3}、内田 晃裕¹、小西 菜緒¹、南場 美沙都¹、藤田 純嗣郎¹

1. 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター、
2. 岡山大学 社会文化科学研究科 客員研究員、
3. 岡山大学 教育推進機構

P23-2 自閉スペクトラム症当事者ときょうだいの感覚特性の相関について

○樋口 詩乃¹、川中 奈都実¹、岩永 竜一郎²、今村 明²

1. 長崎大学医歯薬学総合研究科、
2. 長崎大学生命医科学域保健学系

P23-3 自閉スペクトラム症者の思春期における社会的カモフラージュ：性差、学校段階、診断時期、自閉特性の影響の多角的な検討

○奈村 玲里¹、管 思清²、川口 恭央²、大島 郁葉^{1・2}

1. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科千葉校、
2. 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

P23-4 成人発達障害とアトピー性皮膚炎の関連について

○大田垣 昂、榎戸 美佐子、藤田 宗久、角谷 陽平、谷口 園子、米本 智美、松田 文恵、

谷野 亮一郎

谷野呉山病院

P23-5 自閉スペクトラム症児における皮膚むしり症と感覚処理

○平井 香¹、宮脇 大^{1・3}、角野 信¹、濱 宏樹^{1・3}、西浦 沙耶花¹、鋤柄 文香¹、石原 昂季¹、
柿下 優衣²、井上 幸紀¹

1. 大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学、
2. 大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学、
3. 大阪市立総合医療センター児童青年精神科

P23-6 思春期・青年期患者における感覚プロファイルと臨床症状の関係性についてー予備的研究ー

○狩野 静香¹、補永 栄子²、崎田 純³、三好 紀子⁴、松本 恵⁵、金井 講治⁶、池田 学¹

1. 大阪大学大学院医学系研究科・精神医学教室、
2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科、
3. 大阪大学人間科学研究科、
4. 清順堂ためなが温泉病院、
5. 大阪大学大学院人間科学研究科、
6. 三重大学保健管理センター

11:20-12:20

ポスター 24

虐待・地域連携など

司会：大西 雄一（東海大学医学部精神科学）

**P24-1 児童養護施設および児童心理治療施設の被措置児童の学習困難の実態調査
ー学習障碍の観点を入れてー**

○高橋 ふき、越後 顕一、志田 沙恵子、宮城 崇史、小川 素子、石坂 好樹
児童心理治療施設ももの木学園

P24-2 統合型 HTP 法からくみ取る被虐待児の内的世界ー 2 事例の分析を通してー

○牧野 裕也¹、大高 一則²

1. 高知大学学び創造センター、2. 大高クリニック

P24-3 自閉スペクトラム症の児童への虐待に対して介入し、背景にある母の精神疾患の治療にあたることで家庭再統合することができた一例

○池田 仁、沖野 剛志

長浜赤十字病院

P24-4 地方病院における行動障害を伴う軽度知的障害・発達障害患者への支援：症例報告

浅岡 浩平

杉田玄白記念公立小浜病院

P24-5 子どもの心の傷つき体験と急激な情緒変化・家庭生活の関係について：当院実態調査

○森 昭憲¹、仲田 真理子²、河野 由依²、服部 小太郎²、瀬戸川 剛^{3,4}

1. 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、

2. 筑波大学・行動神経内分泌学研究室、3. 富山大学・医学部、

4. 富山大学・アイドリング脳科学研究センター

10:10-11:10

ポスター 21

その他 3

司会：平野 千晶（医療法人成精会 刈谷病院）

P21-1 児童精神科臨床におけるペアレントトレーニングの治療効果に関する後方視研究

○高橋 美和¹、山口 貴史^{1・3・4}、木原 望美^{1・3・4}、齋藤 真樹子^{1・3・4}、酒井 真優^{1・4}、藤原 麻里子¹、杉田 理緒¹、松井 春奈¹、齊藤 万比古^{1・5}、細金 奈奈^{2・3}、小平 雅基^{1・2・3・4}

1. 愛育産後ケア子育てステーション 子どものこころ相談室、
2. 総合母子保健センター 愛育クリニック小児精神保健科、
3. 愛育研究所 児童福祉・精神保健研究部、4. 総合母子保健センター 愛育クリニック医療福祉室、
5. 愛育研究所

P21-2 外国につながる発達障害児者とその家族への支援に係る情報提供

～小学生から高校生と家族のためのパンフレット作成について～

○与那城 郁子¹、高橋 脩²、柿元 真知³、神谷 真巳⁴、小川 しおり⁵、山脇 かおり¹

1. 国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部 発達障害情報・支援センター、
2. 社会福祉法人 豊田市福祉事業団、3. 三重県立子ども心身発達医療センター、
4. 社会福祉法人 豊田市福祉事業団 豊田市こども発達センター、
5. 東海国立大学機構 名古屋大学

P21-3 精神科疾患患児から身体的暴力を受けた経験のある看護師が行う 包括的暴力防止プログラムにおける Person-centered 的な介入の実践

○山崎 あゆみ、松木 喜与、白井 澄

独立行政法人国立病院機構四国こどもととなの医療センター

P21-4 アジアの神経発達症に関するレジストリ研究：薬物療法と心理検査の国際比較

○坂本 由唯¹、斉藤 まなぶ³、廣澤 徹⁵、水野 賀史⁶、中村 和彦¹、橘 雅弥^{2・5}

1. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座、
2. 弘前大学大学院保健学研究科 心理支援科学専攻、
3. 金沢大学子どものこころの発達研究センター、4. 大阪大学大学院医学系研究科 小児科学、5. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科
6. 福井大学子どものこころ発達研究センター

P21-5 ICT 機器を用いた算数障害特性のスクリーニング検査と算数障害の精査の結果の関連性：算数障害特性のある児童 11 名を対象とした検討

○鈴木 歌音¹、藤岡 徹²

1. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科福井校、2. 福井大学学術研究院教育・人文社会系部門、

11:20-12:20

ポスター 25

気分障害

司会：佐々木 剛（千葉大学医学部附属病院 こどものこころ診療部）

P25-1 当院を受診した 20 歳未満の患者における精神科診断および希死念慮の検討

○今村 要介¹、高田 加奈子¹、松本 美菜子¹、岩屋 悠生^{1・2}、香月 大輔¹、山根 謙一¹、山下 洋¹

1. 九州大学病院子どもこころの診療部、2. 福岡県立精神医療センター太宰府病院

P25-2 幻視、幻聴を訴えた自閉スペクトラム症をもつ児童期双極症の一例

○熊代 奈津子、野村 健介

島田療育センター

P25-3 青年の自殺念慮とソーシャル・サポートの互恵性の関連：心理的リスク因子を統制した上でソーシャル・サポートがどのように自殺念慮と関連するか

○村上 智生¹、足立 匡基²

1. 明治学院大学心理学部（調査時）、2. 明治学院大学心理学部

P25-4 遷延性悲嘆症（複雑性悲嘆）にうつ病エピソードを合併した 1 例－青年期女性症例からの考察－

○御園 覚夫、山崎 史暁、佐々木 剛

千葉大学医学部附属病院

3 日目 11 月 15 日（土）H 会場 AOSSA 6F 福井市地域交流プラザ 研修室 603

10:10-11:10

ポスター 22

不登校 3

司会：片山 智子（こころとからだクリニック福井）

P22-1 知的能力の高い子どもの不登校要因の検討

片桐 正敏

北海道教育大学旭川校

P22-2 ミソフォニア（音嫌悪症）およびミソキネシア（動作嫌悪症）有する不登校女兒に就学的治療を行い、復学・進学を果たした女兒の一例

野村 健介^{1・2}

1. 島田療育センター児童精神科、2. 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

P22-3 児童生徒の生活習慣と登校状況との間の短期縦断的な関連：GIGA スクール端末を用いた不登校の早期徴候把握を目指して

○鈴木 美樹江¹、高橋 雄介²

1. 愛知教育大学、2. 京都大学

P22-4 学校でのネガティブな経験と登校頻度や学校・家庭生活との関連

○瀬戸川 剛^{1・2}、河野 由依³、服部 小太郎³、仲田 真理子³、森 昭憲⁴

1. 富山大学・医学部、2. 富山大学・アイドリング脳科学研究センター、

3. 筑波大学・行動神経内分泌学研究室、4. 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

P22-5 小児期から思春期における登校・生活状況とメディア利用との関連

○服部 小太郎¹、河野 由依¹、仲田 真理子¹、瀬戸川 剛^{2・3}、森 昭憲⁴

1. 筑波大学・行動神経内分泌学研究室、2. 富山大学・医学部、

3. 富山大学・アイドリング脳科学研究センター、

4. 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

11:20-12:20

ポスター 26

心理社会的援助・家族支援 4

司会：山本 朗（東大阪市立障害児者支援センター）

P26-1 児童・思春期病棟を有する精神科病院が運営する思春期ショートケア「エウレカ」の治療的意義
～多職種協働を通して患者の精神発達を支える“抱える環境”を作る試み～

○岡田 英哲²、大矢 瑞穂²、中野 三津子³、小田 暁³、藤井 寛也³、池谷 夏美²、今若 景太²、
牛島 あやの²、竹内 俊介¹

1. 医療法人弘徳会 愛光病院、2. 医療法人弘徳会 愛光病院 地域連携支援局、
3. 医療法人弘徳会 愛光病院 診療局

P26-2 今の社会に生きる若者の「生きづらさ」の実態とその支援に向けて

○大嶽 裕太郎

龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻

P26-3 初診時における症状に対する思春期患者と親の認識の乖離に関する予備的研究

○崎田 純¹、補永 栄子²、狩野 静香³、三好 紀子⁴、松本 恵⁵、金井 講治⁶、池田 学³

1. 大阪大学人間科学研究科、2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科、
3. 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、4. 清順堂ためなが温泉病院、
5. 大阪大学大学院人間科学研究科、6. 三重大学保健管理センター

P26-4 タイトレーションを用いたトラウマインフォームドケアによる支援の有用性について
～発達特性・愛着・トラウマの重なりに着目して～

○青木 悠¹、川端 康雄¹、高山 真衣¹、矢藤 来未¹、百溪 さゆり¹、大西 尚哉¹、~~越智 文⁺~~、~~竹井 謙貴⁺~~、
藤本 健士郎¹、岡山 達志^{1・2}、久保 洋一郎¹、木下 真也¹、金沢 徹文¹

1. 大阪医科薬科大学 神経精神医学教室、2. いわくら病院

P26-5 Minecraft®を用いた集団作業療法の有効性の評価

○白石 健^{1・2}、公家 里依^{1・3}、篠山 大明^{1・2}、本田 秀夫^{1・3}

1. 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室、2. 信州大学医学部精神医学教室、
3. 信州大学医学部附属病院子どものこころ診療

3日目 11月15日(土) | 会場 ハピリン 3F ハピリンホール

9:00-10:30

シンポジウム 21

行動化の背景にあるもの

司会：原田 謙（長野県立こころの医療センター駒ヶ根 子どものこころ診療センター センター長）

司会：笠原 麻里（駒木野病院 精神科）

S21-1 “大切にする”を育む～プライマリーナースの葛藤～

関口 晴紀（駒木野病院 児童精神科病棟 看護師）

S21-2 愛されたかった患児に振り回され続けた533日間～入院が長期化し対応に難渋した症例から～

小川 香織（岩手医科大学附属病院 児童精神科子どものこころ病棟 臨床心理士）

S21-3 ふたたび、人とつながる～市販薬を乱用していた女子中学生の入院治療～

三ツ橋 じゅん（埼玉県立精神医療センター 療養援助部 副技師長）

10:40-12:10

シンポジウム 24

神経発達症の研究と臨床の架け橋：臨床応用に向けた連合小児発達学研究科の取り組み

司会：松崎 秀夫（福井大学 子どものこころの発達研究センター センター長・教授）

司会：水野 賀史（福井大学 子どものこころの発達研究センター 准教授）

S24-1 希少疾患の知見から神経発達症の包括的理解を目指して

木村 亮（大阪大学 大学院連合小児発達学研究科 生命情報学 教授）

S24-2 「診断横断的」縦断研究を考える

土屋 賢治（浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター 特任教授）

S24-3 児童青年期における脳磁図を用いた脳機能解析の展開：過去研究のレビューと臨床応用への展望

廣澤 徹（金沢大学 神経科精神科）

S24-4 注意欠如多動症支援における認知行動療法の知見と展望：メタ解析から社会実装に向けて

濱谷 沙世（福井大学 子どものこころの発達研究センター）

12:20-13:20

共催セミナー 5（大塚製薬株式会社）

「自閉」はどこから来て、どこへ向かうのか：自閉スペクトラム症・統合失調症・トラウマ関連症の交錯と境界

司会：金生 由紀子（社会福祉法人全国心身障害児福祉財団 全国療育相談センター）

演者：今村 明（長崎大学 生命医科学域保健学系作業療法学分野）

13:30-15:00

シンポジウム 26

神経発達症の発症と環境要因

司会：高橋 長秀（国立精神神経医療研究センター 精神保健研究所 知的・発達障害研究部 部長）

司会：土屋 賢治（浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター 特任教授）

S26-1 周産期のリスクと神経発達症～疫学的知見から～

土屋 賢治（浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター 特任教授）

S26-2 周産期のリスクが神経発達症に与える影響～動物モデル研究から～

土井 美幸（大阪大学大学院 医学系研究科 神経細胞生物学講座 助教）

S26-3 甲状腺機能低下を誘導する化学物質の神経発達症リスクをどう評価するのか？

～マウスモデル用いた検証と今後の展望～

中西 剛（岐阜薬科大学 衛生学研究室 教授）

S26-4 幼児期の生活習慣が神経発達症に与える影響～睡眠・スクリーンタイム・ゲームの影響～

高橋 長秀（国立精神神経医療研究センター 精神保健研究所 知的・発達障害研究部 部長）

9:00-10:00

一般口演 27

精神療法・心理療法など1

司会：幸田 有史（京都府立洛南病院）

027-1 夢を通して困り感を伝える自閉スペクトラム症男子の面接過程

○二宮 宗三¹、忍足 美良乃¹、渡邊 未来¹、川添 万葉²、田岡 由紀子^{2,4}、篠原 玲奈²、
砂川 ひかる^{2,3}、牛島 洋景²

1. いちかわこころの相談所 むすび葉、2. うしじまこころの診療所、
3. 国立病院機構下志津病院、4. 船橋市総合教育センター

027-2 社会的関係の形成の困難から、母親と乳幼児的な関係を続ける14歳女儿の一例

○小田 暁^{1,5}、伊丹 寛二^{1,6}、藤井 寛也¹、池谷 夏美²、今若 景太³、岡田 英哲⁴、大矢 瑞穂⁴、
~~内田 修三~~¹、竹内 俊介¹、大西 雄一⁵、山本 賢司⁵、三上 克史⁵

1. 医療法人 弘徳会 愛光病院、2. 医療法人 弘徳会 愛光病院 地域連携支援局 相談科、
3. 医療法人 弘徳会 愛光病院 地域連携支援局 作業療法科、
4. 医療法人 弘徳会 愛光病院 地域連携支援局 心理科、
5. 東海大学医学部医学科総合診療学系精神科学、6. 東海大学医学部附属八王子病院 精神科

027-3 ひらがな支援研究プロジェクト

～学童初期におけるひらがなの獲得がすべての子どもの学力保障へとつながる～

島田 敏行

三重大学教育学部附属学校企画経営室

027-4 読み書き困難より、行動特性が影響？－適応行動の予測因子を探る－

○葛森 英史、片桐 正敏、萩原 拓

北海道教育大学旭川校

10:10-11:10

一般口演 30

精神療法・心理療法など2

司会：吉馴 亮子（福井大学 子どものこころ診療部）

030-1 子どもの問題を語る母に対して解決志向アプローチの技法の一つである“例外探しの質問”を用いることで子どもの対人関係トラブルがなくなった1症例

○藤枝 周平、宋 大光

医療法人不動心 宋こどものこころ醫院

030-2 離別体験後に入浴ができなくなるなどの症状が現れ不安症・強迫症が疑われたが、オープンダイアログに基づく外来診療を通して症状が寛解した2症例

○中村 朔也、山路 由夏、大原 伸騎、永野 志歩

高知県・高知市病院企業団立高知医療センターこころのサポートセンター

030-3 「思想」を繰り返し語る思春期男子への短期入院を端緒とした心理療法的アプローチ－現実を支え、病的体験を制御する－

○根本 泰明^{1,2}、塚原 さち子^{1,2}、島内 智子²、小野 和哉²

1. 聖マリアンナ医科大学病院 精神療法ストレスケアセンター、
2. 聖マリアンナ医科大学 神経精神科

030-4 場面緘黙の中学生に対してクリニック及び学校での段階的エクスポージャーが有効であった3症例－保育所等訪問支援を活用して－

○河野 里沙¹、梶梅 あい子^{1,2}

1. あおさきこども心療所、2. 広島大学病院小児科

11:20-12:20

一般口演 33

幼児・健診

司会：津田 明美（育ちのクリニック津田）

O33-1 5歳児個別健診から療育センターに紹介される児の後方視的検討

香取 奈穂

川崎市南部地域療育センター

O33-2 乳幼児健診での指摘内容と知的能力および発達特性の関連性の検討

○福島 茂樹、峯川 章子

1. 大阪市立心身障がい者リハビリテーションセンター

O33-3 3歳児における睡眠障害の有病率の推定及び睡眠問題と発達や行動の関連

～3歳児健診結果からの報告 population-based study～

○斉藤 まなぶ¹、大里 絢子¹、坂本 由唯²、毛利 育子³、原 由紀⁴、金生 由紀子⁵、北 洋輔⁶、照井 藍⁷、吉田 和貴⁷、稲垣 真澄⁸

1. 弘前大学大学院保健学研究科心理支援科学領域、2. 弘前大学医学部附属病院神経科精神科、

3. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科、4. 北里大学医療衛生学部、

5. 東京大学医学部附属病院、6. 慶應義塾大学文学部、

7. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、

8. 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

13:30-14:30

一般口演 34

嗜癖・依存症

司会：館農 勝（特定医療法人さっぽろ悠心のときわ病院）

034-1 抜毛症の男児の治療経過に関する考察

○木戸 瑞江、中村 祐

香川大学医学部附属病院精神神経科

034-2 中学生を対象としたゲーム依存度とひきこもり傾向についての調査

○館農 勝^{1,3}、下出 崇輝^{2,3}、下村 遼太郎¹、白石 映里¹、南波 江太郎¹、館農 幸恵¹

1. ときわ病院・ときわこども発達センター、2. しもでメンタルクリニック平岸分院、
3. 札幌医科大学附属病院神経精神科こどもメンタルクリニック

034-3 子どものインターネット問題使用と生活習慣との関連：全国縦断研究

○須山 聡¹、西木 百合子^{2,3}、福屋 吉史⁴、荻野 和雄⁵、山脇 かおり⁶、小川 しおり⁷、石塚 一枝⁸

1. 北海道大学病院 子どものこころと発達センター、
2. 東京都立小児総合医療センター児童思春期精神科、
3. 東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻こころの発達医学、
4. 東邦大学医学部精神神経医学講座、5. 福井厚生病院 ストレスケア科、
6. 国立障害者リハビリテーションセンター病院 小児科・児童精神科、
7. 名古屋大学総合保健体育科学センター、
8. 国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター 女性のライフコース疫学研究室

034-4 思春期の子どもの孤独感がインターネット依存に及ぼす影響の検証

○福屋 吉史¹、西木 百合子^{2,3}、須山 聡⁴、荻野 和雄⁵、小川 しおり⁶、山脇 かおり⁷、石塚 一枝⁹

1. 東邦大学医学部精神神経医学講座、2. 東京都立小児総合医療センター児童思春期精神科、
3. 東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻こころの発達医学、
4. 北海道大学病院 子どものこころと発達センター、5. 福井厚生病院 ストレスケア科、
6. 名古屋大学 総合保健体育科学センター、
7. 国立障害者リハビリテーションセンター病院 小児科・児童精神科、
8. 成育医療研究センター研究所 社会医学研究部、
9. 国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター 女性のライフコース疫学研究室

034-5 長時間のゲームプレイはゲーム行動症を直接引き起こすのか？：ICD-11 基準を用いた縦断研究

○井出 草平^{1,2}、鈴木 太^{3,4}、小坂 浩隆²

1. 多摩大学情報社会研究所、2. 福井大学医学部精神医学、
3. 上林記念病院 こども発達センターあおむし、
4. 福井大学子どものこころの発達研究センター地域こころの支援部門

第 66 回日本児童青年精神医学会総会 役員

会長	小坂 浩隆	福井大学医学部 精神医学
副会長	眞田 陸	福井大学医学部 精神医学
事務局長	幅田加以瑛	福井大学医学部 精神医学
プログラム委員	足立 匡基 板垣俊太郎 宇佐美政英 大石 聡 太田 豊作 荻野 和雄 片桐 正敏 佐々木 剛 定本ゆきこ 鈴木 太 高橋 秀俊 館農 勝 田中 容子 辻井 農重 中土井芳弘 福地 成 福元進太郎 藤岡 徹 藤田 純一 堀内 史枝 堀川 直希 牧野 拓也 水野 有香 宮崎 健祐 宮脇 大 柳生 一自 山下 洋 山田 敦朗	明治学院大学心理学部 (公) 福島県立医科大学 医学部 神経精神医学講座 国立国際医療研究センター国府台病院 静岡県立こども病院 奈良県立医科大学 人間発達学 医療法人厚生会 福井厚生病院 北海道教育大学旭川校 千葉大学医学部附属病院 こどものこころ診療部 京都少年鑑別所 上林記念病院こども発達センターあおむし 高知大学医学寄附講座児童青年期精神医学 ときわ病院・ときわこども発達センター 府中刑務所 富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座 国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター 東北医科薬科大学病院 精神科 福井大学 医学部 精神医学 福井大学 学術研究院教育・人文社会系部門 横浜市立大学附属病院 愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座 医療法人コミュノテ風と虹 のぞえの丘病院 福井大学医学部附属病院 福井大学医学部 精神医学 弘前愛成会病院精神科 大阪市立総合医療センター 児童青年精神科 北海道医療大学 心理科学部 九州大学病院 子どものこころの診療部 名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座
倫理委員	生地 新 太田 順一郎 河野 美帆 木村 一優 坂本 由唯 佐々木 宏太 篠山 大明 庄 紀子 白石 健 関 正樹 千石 竜己 高橋 秀俊 田中 究 辻井 農重 中西 大介 森本 芳郎 山根 謙一	

謝 辞

株式会社明石書店

株式会社岩崎学術出版社

ヴィアトリス製薬合同会社

エーザイ株式会社

大塚製薬株式会社

株式会社金子書房

共和薬品工業株式会社

株式会社金剛出版

誠信書房株式会社

株式会社星和書店

塩野義製薬株式会社

シスメックス株式会社

武田薬品工業株式会社

ノーベルファーマ株式会社

株式会社日本評論社

福村出版株式会社

株式会社メディカルレビュー社

ヤンセンファーマ株式会社

五十音順

2025年9月現在

第66回日本児童青年精神医学会総会の開催にあたり、上記の皆様からのご支援を賜りました。

ここに謹んで御礼申し上げます。



第66回

日本児童青年精神医学会総会

The 66th Annual Meeting of the Japanese Society
for Child and Adolescent Psychiatry